

第 18 期 総 会 資 料

2019年2月22日（金）13：30

機械振興会館 B3F 第1研修室

目 次

1	2018年度 事業報告	1
	第1部 事業概要	1
	1. 本部	1
	2. 委員会	2
	3. 部会	7
	4. 研究会	10
	5. 支部	17
	第2部 会計報告及び会計監査報告	30
2	2019年度 事業計画(案)	36
	1. 本部・計画	36
	2. 委員会・計画	36
	3. 部会・計画	39
	4. 研究会・計画	40
	5. 支部・計画	44
3	2019年度 予算(案)	50



特定非営利活動法人
日本システム監査人協会

1 2018年度 事業報告

第1部 事業概要

1. 本部

1. 1. 全般概要

(1) 会員の状況

- 1) 正会員・個人・・・・・・・・・・・・ 624名
- 2) 正会員・団体・・・・・・・・・・・・ 30社 (合計 **654**正会員/2018年12月末現在)

2018年度は、例年通り、システム監査活性化委員会活動、月例研究会や事例研セミナーの開催、会報やホームページの内容充実、支部活動の活性化等、協会を挙げてシステム監査の普及・啓発および会員増強に努めた。さらに、2018年度は協会設立30周年に当たることから、年間を通して記念講演、記念出版、小冊子の改定などにも取り組んだ。また、システム監査基準・システム管理基準が2018年4月に改訂されたことを受け、ITアセスメント研究会をはじめ関係する研究会等が基準改訂に対応する活動を行った。その結果、個人入会者は32名(2017年度27名、2016年度24名)、団体入会は、4社(2017年度2社、2016年度3社)と2017年度実績をわずかに上回ってはいるが停滞状況のまま推移している。会員資格の継続者のうち、2018年の終身会員制度適用者として、65歳以上が4名(2017年度3名、2016年度3名、2015年度5名)、75歳以上が0名(2017年度2名、2016年度2名、2015年度4名)、計4名が終身会員として資格を継続され、終身会員総数は累計で23名となった。また、定年を迎えて、の退会が増えており、2018年度の退会者は52名(2017年度61名、2016年度59名、2015年度51名、2014年度66名、2013年度50名)と、2013年度以降の減少傾向に歯止めをかけることができない結果となった。退会者52名のうち、除名者が8名(2017年度16名、2016年度17名、2015年度21名、2014年度29名)と減少傾向が持続しているが、会費を完納されて退会される比率が維持されている。また、団体会員は4社(2017年度3社、2016年度2社、2015年度0社)であった。会員規程第3条(会費納入期限)に基づき、年度末(12月末)までの1年間を納入期限としたことが浸透し、会員が計画的に退会を選択されるようになり、会費督促や、経理処理の事務処理負荷軽減に大きく寄与する結果となっている。

2019年1月1日現在、東京都中央区茅場町に本部の事務所を置き、地方会員の組織として北海道・東北・中部・北信越・近畿・中四国・九州に7支部がある。

(2) 理事会の活動状況

理事会は、当協会の活動の原点であり、毎回活動の諸案件について活発に議論し審議・決定された。

月日	審議事項
1/11	・定款の改定(事務局) ・第17期通常総会資料(事務局) ・役員総会役割分担(事務局) ・「会報掲載「論文」募集要項(案)」(会報部会)
2/1	・定款の改定 ・事業報告・計画案 ・総会役割分担 ・「理事活動規程」改定
3/8	・会長の選任について ・副会長の選任について ・事務局長の選任について ・理事役割分担について ・PJM 監査研終了と後継の「PJA 研究会」発足について
4/12	・審議事項なし
5/19	・審議事項なし
6/14	・東京都による定款訂正指摘の審議(事務局)
7/12	・「理事活動等に関する規程」改正について(事務局)
8月	休会
9/13	・会計規程の改正(会計)
10/11	・審議事項なし
11/8	・審議事項なし
12/13	・会費未納の事由による会員除名処分 ・消耗品の予算超過(印刷関連消耗品費等)

(3) 事務局

事務局(斉藤茂雄事務局長)は、入退会に関わる事務処理、会員管理システムの会員データ管理、及び協会全体の事務処理の効率化に取り組んだ。

会費納入期限を2月末とし、2015年度より引き続き、3月より未納者への会費督促メール発信し、また6月より督促状を送付するとともに役員全員が協力して、電話による状況確認に加えて、会費お支払いをお願いする作業を行った。なお、会費請求書には、「会員サイト」へのログインIDを記載し、会員自身が、年会費の支払い状況を確認し、また住所変更等の訂正を行っていただくよう案内している。

また、2017年に引き続き1口3,000円以上のご寄附のお願いを実施し、100名を超える寄附者からのご協力をいただき、2015年6月3日の東京都「認定NPO法人」認定以降も、パブリック・サポート・テスト基準(広く市民からの支援を受けているかの判断基準)を維持することができた。寄附者が税額控除の適用を受けるための「寄附金領収書」を2018年12月の会費請求書発送時に同封した。

事務処理については、事務局、委員会、部会、研究会、支部の担当役員の交替にあわせて、各業務の流れを事務局サイト(一般非公開)にて情報共有するなどの効率化を図った。

[>目次](#)

2. 委員会

2. 1. システム監査活性化委員会

(1) 体制

○委員長 : 小野修一会長

○メンバー : 各研究会、部会、委員会、担当の主査および各支部長

(2) 活動の概要

2018年度も、システム監査活性化委員会(通称、活性化委員会)として活動を行った。

小野会長を主査に、各研究会、部会、委員会、担当の代表者をメンバーに委員会を編成し、定期的に委員会を開催、活性化につながる施策について組織横断的な意見交換を行うとともに、2016年度の総会において発表した協会の3年後のあるべき姿を明示した「ビジョン」を具体的取組みに展開する活動を行った。各支部長からは、メールベースでご意見をいただいた。

2018年度に行った主な活動は次の通りであった。

- 1) 各研究会、部会、委員会、担当が行っている活動について、活性化委員会メンバーから提案などを出し、意見交換を行った。出された意見や提案は、各研究会等の主査が持ち帰り、各研究会等の活動に生かしている。
- 2) 2016年度、2017年度に実施し好評であった、会員の皆さんに協会および協会活動をよく知っていただき、研究会や部会に参加してもらおう機会を作ることを目的とした「会員向け活動説明会」を、2018年度も実施した(2018/10/27)。2018年度も20人強の会員が参加され、参加者の中から研究会等に参加したいという声が出された。
- 3) 『システム監査を知るための小冊子』の改訂作業を、活性化委員会委員を中心に、多くの会員の皆様にご協力していただき実施した。2019年度の総会でお披露目の予定である。

[>目次](#)

2. 2. ホームページ運営委員会

(1) 体制

○委員長 : 斎藤由紀子

○メンバー : 委員会、部会、研究会の各主査、支部長

(2) 活動の概要

- 1) 協会のホームページ <https://www.saa.or.jp/> は、2018年度に以下の部門からの要請で委託先に合計43回（月平均3.58回、2017年度45回月平均3.75回、2016年度64回平均5.4回）のサイト掲載を依頼した。そのほか、事務局でも35回（2017年度16回、2016年度9回）の掲載を行った。

月	回数	依頼部門
1月	4回	事務局 1、認定 1、事例 1、近畿 1
2月	3回	月例 1、事例 1、近畿 1
3月	4回	月例 1、教育 2、近畿 1
4月	5回	月例 1、教育 1、事例 1、近畿 2
5月	2回	月例 1、教育 1
6月	3回	教育 1、事例 2
7月	3回	月例 1、認定 1、近畿 1、
8月	3回	月例 1、認定 1、近畿 1、
9月	6回	活性化 1、月例 1、教育 1、事例 1、近畿 2
10月	3回	月例 1、北信越 1、近畿 1
11月	4回	事務局 1、活性化 1、認定 1、近畿 1
12月	3回	月例 1、事例 1、近畿 1
合計 委託先	43回	事務局 2、活性化 2、月例 9、認定 4、教育 6、事例 7、北信越 1、近畿 12
事務局	35回	事務局 16、活性化 1、法人 1、会報 13、ITA1、PRJM1、支部 2

- 2) 事務局サイト（常時SSL化対応済み）は、以下のコンテンツを公開している。

- ・6ヶ月で構築する「PMSハンドブック2014」様式ダウンロード
- ・No1号からの会報PDFダウンロード
- ・役員の経費立替支払依頼書等の様式
- ・事務局業務マニュアル

[> 目次](#)

2. 3. 推薦委員会

(1) 体制

- 委員長 : 仲厚吉
- メンバー : 松尾正行 三谷慶一郎

(2) 活動の概要

推薦制度運営委員会（以下推薦委員会）は、CSA資格を有する者が所属する正会員団体又はCSA資格を保有する正会員個人のうち「推薦台帳」に登録した者について、1号推薦（外部からの推薦依頼）又は2号推薦（台帳登録者からの自己推薦依頼）を受けてシステム監査人の適任者を推薦している。

(3) 活動状況

2018年度は、1号推薦、2号推薦とも推薦委員会からの推薦はなかったが、行政機関、地方公共団体等より委員等の推薦を依頼される場合や外部団体のシステム監査人募集等に協力する場合があります対応を行った。

[> 目次](#)

2. 4. 認定委員会

(1) 体制

- 委員長 : 舘岡均
- メンバー : 常任委員・副委員長（鈴木信夫、斉藤茂雄）、委員（理事）

(2) 公認システム監査人、システム監査人補の、認定登録の状況

2018年度の公認システム監査人及びシステム監査人補の新規応募者の認定登録状況は以下のとおりである。

- 1) 公認システム監査人は、春期4名、秋期7名で年度の合計11名
- 2) システム監査人補は、春期6名、秋期4名で年度の合計10名
公認システム監査人とシステム監査人補の年度の合計は21名であった（2017年度は19名）。

公認システム監査人は2018年度合計11名であった（2016年度は15名、2017年度は10名）。比較するとほぼ横ばい状況となっている。

この結果2018年度末の累計では、公認システム監査人が320名、システム監査人補が79名、合わせて399名となり、累計はほぼ横ばい状況となっている。

面接審査は、東京地区2回、東北地区1回、中部地区1回、近畿地区1回で実施した。1組2名で土曜日あるいは日曜日に実施した面接審査には、地区の支部長、あるいは経験を積んだ面接委員の応援を得た。

(3) 公認システム監査人、システム監査人補の、認定更新の状況

2002年度、2003年度、2005年度、2006年度、2008年度、2011年度、2013年度、2015年度に認定登録された公認システム監査人及びシステム監査人補の更新状況は、公認システム監査人の失効者16名、システム監査人補の失効者13名となった。失効者数は例年と同様に低く抑えられた。

2014年度まで認定資格更新時の各種書類は郵送にて提出していたが、詳細に検討を重ねて業務手順を改定し、2015年度から電子メールによる提出を実施した結果、更新者にとって郵送料が不要となり、かつ利便性が良くなった。

(4) 公認システム監査人認定制度の特別認定制度の改定

システム監査技術者試験と関連性のある資格の所有者については、特別認定制度により、一定の教育を受けることなどを条件として同様に認定している。新たな所有資格を加えて、特別認定制度を2017年6月8日に改定した。具体的には、情報処理安全確保支援士、米国公認会計士、内部監査人、QMS主任審査員／エキスパート審査員、公認情報セキュリティ監査人／主任監査人を加えた。

その結果2018年秋期までに、公認システム監査人（CSA）では内部監査人4名、公認情報セキュリティ主任監査人1名、またシステム監査人補（ASA）では内部監査人2名、それぞれが認定登録されている。

[>目次](#)

2. 5. CSA利用推進グループ

(1) 体制

○主査 : 齊藤茂雄

○メンバー : 桜井由美子、力利則、原純江、大西智（オブザーバ）

(2) 活動の概要

- 1) CSA利用推進グループの活動は2006年度から開始した。2018年度も従来の活動を踏襲し、主としてCSAフォーラムの開催を行った。
- 2) CSAフォーラムは、CSA・ASA認定取得者の相互研鑽、情報共有、フェイスtoフェイスの意見交換の場として開催しているが、2018年度は2回開催し通算で33回となった。2017年度に続き本部所在地の日本橋茅場町の貸し会議室にて実施した。
- 3) 例年実施している「CSAを入札条件に入れる依頼文」の法人部会実施の自治体向けDMへの同封、関東地区活動説明会での報告などを実施した。

(3) 活動の目的

- 1) 「CSAのプレゼンスを高める。CSAの社会的な評価や価値を高める。CSAの社会的な認知度を上げる。CSAになって良かったと思ってもらえる。CSA認定の付加価値を高める。CSAが社会的に認められ活動がしやすくなる」という活動目的を当初から掲げている。
- 2) 2018年度もCSAフォーラムの開催によりCSA同志の交流と輪を広げ、相互連携等を行うことを活動目標としてきた。

(4) CSAフォーラム活動

2018年度の開催内容は次表の通りであった。各回とも20～30名の参加者を得ることができた。

月日	開催回	テーマ	講師
5/28	第32回	解説！「発注者のプロジェクトマネジメントと監査」	原田憲幸氏
12/17	第33回	「APEC/CBPR 及び GDPR の概要とシステム監査人の対応」	仲 厚吉氏

2. 6. 教育研修委員会

(1) 体制

- 委員長 : 三輪智哉
- 委員 : 中山孝明、戸室佳代子、越野雅晴

(2) 活動の概要

特別認定講習実施機関（以下「講習実施機関」という）に委託している特別認定講習について、講習実施スケジュールの協会ホームページ掲載から、講習実施結果の評価・修了認定・修了証発行までの一連の活動を継続している。なお、講習実施機関は前年通り2社。

(3) 特別認定講習の概要

公認システム監査人(Certified Systems Auditor)」および「システム監査人補(Associate Systems Auditor)」の認定制度において、システム監査技術者試験と関連性のある資格の所有者については、特別認定制度が定める講習を履修し一定以上の成績を修めることにより、システム監査技術者試験の合格者と同様に取り扱われる。

詳細：公認システム監査人定制度 (<https://www.saaj.or.jp/csa/index.html>)

(4) 特別認定講習の実施状況 (受講修了者は延べ人数、修了証発行ベース)

講習コース	実施回数	受講修了者数	2017年度実績	
	実施場所：実施月		実施回数	修了者数
1) 論文・プレゼンテーションコース(1日コース)	1回	6名	3回	5名
	東京1回：9月 大阪0回			
2) システム監査に関する知識コース(2日コース)	3回	7名	3回	7名
	東京1回：3月 大阪2回：2月、9月			
3) 情報システムに関する知識コース(2日コース)	3回	6名	0回	0名
	東京3回 大阪0回			
計	7回	19名	6回	12名

(5) 運営管理状況

- 1) 実施された各講習について、講習実施機関の試験問題・採点要領・採点結果に問題はなく、いずれも修了証発行となった。(講習実施機関では、成績未達者に対して、再テストが実施されている)
- 2) 実施回数や受講者数の前年度比は、企業単位の申し込み状況によって変動するが、本年度は、実施回は対前年比でほぼ横ばいとなり、受講生数では3割増加となった。

2. 7. 月例研運営委員会

(1) 体制

- 委員長 : 力利則
- 副委員長 : 櫻井俊裕
- メンバー : 林昭夫 柳田正 戸室佳代子 原純江 豊田諭 清水恵子 山口達也
福田敏博 竹原豊和
- アドバイザー : 仲厚吉 三谷慶一郎 木村裕一

(2) 活動の概要

月例研運営委員会(力利則主査委員長、櫻井俊裕副委員長)は、2017年3月から、円滑な組織運営を図るために「委員会」に再編成(講演会名は従来通り「月例研究会」)され、2018年3月からは新任理事も含めメンバーも充実してきている。

2018年度は、システム監査に関連する時代の動向や重要な事項から、より興味を持たれるテーマをメンバー各位の発案と当番理事（毎回1名）による講師の方々との交渉により、予定通りの開催ができた。その結果、10回の開催、年間906名（2017年度：902名）、平均参加者数は91名（2017年度：100名）となった。また、会員以外の方のご参加も毎回約20%あり、関心の広がりを見せた。

また、13年振りに改定されたシステム監査基準/システム管理基準の説明会を関連団体のご協力により、5/19（土）に特別月例研究会として開催した。

（3）開催報告（会場：機械振興会館 ホール）

回	開催日	2018年「月例研究会」開催実績 テーマ/講師	参加者
229	1/29 (月)	「ITガバナンスの国際標準化（ISO/IEC38500シリーズ）の最新動向とその取り組み」 SAAJ ITアセスメント研究会 有志 松尾正行氏（ISO/IEC JTC1/SC40 WG1メンバー） カ利則氏（ISO/IEC JTC1/SC40 専門委員&WG1メンバー）	89名
230	3/14 (水)	「残念なBCPとこれからのBCP」 東京海上日動リスクコンサルティング株式会社 ソリューション創造本部 主幹研究員 兼 立教大学 21世紀社会デザイン研究科特任教授 指田朝久氏	108名
231	4/17 (火)	「システムの不具合がもたらす社会的影響：ある損害賠償係争事件を巡って」 東京大学工学部計数工学科卒業 同大学院工学系研究科計数工学専攻修士課程修了 東京大学名誉教授 玉井哲雄氏	80名
232 特別 月例研	5/19 (土)	「システム監査基準/管理基準の改訂について」 システム監査に関する検討会 構成員より 経済産業省からご挨拶。座長 遠山暁氏（システム監査学会）、梶本政利氏（日本ITガバナンス協会）、黒澤兵夫氏（システム監査学会）、神橋基博氏（ISACA東京）、 松枝憲司氏（SAAJ）、カ利則氏（SAAJ）、SAAJ ITアセスメント研究会メンバ	136名
233	6/13 (水)	「ITシステム開発のトラブルはどこからくるのか？」 日本アイ・ビー・エム株式会社 東京基礎研究所 インダストリーソリューションサービス 品質エンジニアリング 部長 細川宣啓氏	98名
234	7/26 (木)	JUAS「企業IT動向調査2018」 一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会(JUAS) 常務理事 宮下清氏	72名
235	9/7 (金)	事例から学ぶ「発注者視点のプロジェクトマネジメントと監査」～「発注者のプロジェクトマネジメントと監査」出版記念～ SAAJ理事 SAAJプロジェクト監査研究会 主査 原田憲幸氏	81名
236	10/22 (月)	「IoT・ビッグデータ時代のソフトウェア・AIに係る知的財産」 東京理科大学ビジネススクール（大学院 経営学研究科 技術経営専攻）教授博士（工学） 平塚三好氏	78名
237	11/21 (水)	「信頼できるインターネット社会の実現に向けて」 一般財団法人日本情報経済社会推進協会(JIPDEC) 常務理事 インターネットトラストセンター長 山内徹氏	84名
238	12/5 (水)	「不正リスクへの理解を深める－「不正のトライアングル」の活用」 一般社団法人日本公認不正検査士協会(ACFEJAPAN) 専務理事 株式会社インタクト・コンサルティング執行役員 甘粕潔氏	80名

（4）講師について

講師の方々の所属は、官庁、行政法人（IPA等）2名、関連団体6名、民間2名、大学2名、SAAJ4名+ITアセスメント研であった。

（5）2018年度の取り組み

- 1) 委員長、副委員長、担当理事の就任後3年目となり、また昨年新規に担当理事になられた方々も、月例研の当番理事としての役割の経験を積むことができ、月例研の講師依頼、事前調整、案内作成、HP更新、メール配信、当日役割連絡および分担、当日司会、会報原稿依頼、会報原稿掲載、毎回会計報告等、順調に進めることができるようになってきた。また運営マニュアルもその都度、更新が進むようになってきている。さらに会長並びに事務局にも十分な支援を頂き、月例会としてのより円滑な運営ができた。
- 2) 2018年度は、13年振りに改定されたシステム監査基準/管理基準の説明会を経済産業省や基準作成委員の方々を講師に迎え、関連のシステム監査学会、ISACA、ITガバナンス協会のご協力を得て、開催することができたことは特筆すべきことである。

- 3) 会員の参加費1,000円を維持し、会員の参加を促した。これは会員増強活動の一環にもなっている。またシステム監査学会、ISACA、日本セキュリティマネジメント学会、経営情報学会等、関連する諸団体に「月例研究会」の案内をお送りして、参加者の増加を図った
- 4) 「月例研究会」には非会員の方々にも参加していただける機会（毎回20%程度）であり、会員増強に向け会員勧誘の案内の配布と開会前の時間に協会活動のPRスライドを上映した。
- 5) 2018年度のテーマ&講師選定は、「月例研究会」担当理事の会合（理事会終了後原則毎回開催）において、「月例研究会」参加者アンケート調査結果、最新のIT動向、システム監査の話題・課題等に基づき、各回の「月例研究会」の開催テーマと講師の選定を進めた。
- 6) 当日の資料については、講師の承諾が得られた場合、案内した期間内（講演日の約1週間前から講演翌日まで）に、電子データ資料をWEB画面から参加者がダウンロードして各自に持参いただくことにした。電子媒体での提供が困難な場合は従来通り当番理事側で資料の印刷を行い、当日手渡しとした。
- 7) 各支部には資料とともに当日の録画ビデオを提供（講師の許可を得た上で）して、各支部主催の研究会等で積極的に活用して頂いている。
- 8) 講師も含め「月例研究会」参加者との交流を図るために、「月例研究会」開催後に懇親会を毎回開催した。懇親会参加者は前年度より少ない10数名であったが、意見交換や相互交流等を積極的に行うことができた。理事以外の会員との懇親も深まり、SAAJ会員の意識向上に役立っている。

[> 目次](#)

3. 部会

3. 1. 会報

(1) 体制

(2月迄)

○主査 : 藤澤博

○メンバー : 安部晃生、越野雅晴、桜井由美子、竹原豊和、豊田諭、福田敏博、柳田正、山口達也、高橋典子、久保木孝明

○編集支援 : 会長、各副会長、各支部長

(3月から)

○主査 : 桜井由美子

○副主査 : 安部晃生、越野雅晴

○メンバー : 竹原豊和、豊田諭、福田敏博、柳田正、山口達也、久保木孝明（11月退任）、藤澤博（12月退任）

○編集支援 : 会長、各副会長、各支部長

(2) 活動の概要

「日本システム監査人協会会報」は、会員やシステム監査人のコミュニケーションの場として、会報部会メンバーで編集し発行している。会報は、電子版、メール版を月次発行し、読者がダウンロードして印刷できるようにしている。

(3) 会報部会の概要

会報は、1988年2月にNo1号が発行された。当時は、隔月発行で紙面にて会員に郵送していた。会報の利便性を考慮し、2009年6月（No108号）から電子版発行に切り替えている。さらに2017年11月に、紙面で発行した会報を第1号からPDF化し、会報バックナンバーとして、過去に発行された会報をすべて閲覧可能とした。このことによりSAAJ30年の歴史が見えるようになった。

2011年から会報の月次発行を実現するとともに、タイムリーな情報発信ができるように陣容を整え、会報編集委員の思いを込めて、会報の年間テーマと四半期テーマを選定して投稿を呼びかけてきた。2018年度の年間テーマは、「システム監査人の新たな活躍」とし、四半期テーマは、1月号～3月号は「システム監査人に求められる能力」としたが、2018年4月にシステム監査基準・管理基準が改訂され、システム監査

人への期待がより高まったと考え、4月号～12月号迄は、「システム監査基準・管理基準改訂とこれからのシステム監査人」で統一した。

会報は、特定刊行物として No1 号から国立国会図書館へ納本され、一般の検索、閲覧に供されている。会報の記事には、匿名の「めだか」記事、「記名の投稿」記事、「本部報告」、「支部報告」等がある。「めだか」記事は、匿名投稿者の個人的な意見表明であり SAAJ の見解ではないことをうたっており、誹謗中傷でないかぎり誰でも投稿でき、外部へ思い切った発言を行うことができる。かたや、「記名投稿」記事は、会員番号、氏名、所属部会・研究会、支部をあきらかにすることで、会員やシステム監査人の履歴書に掲載する記録になりえるものとなっている。「本部報告」は、各部会、研究会等の研究成果の発表の場として、また「支部報告」は、各支部での活動報告、定例研究会、合同研究会等の内容の記録ともなっている。

(4) 2018 年に発行した会報の内容

3 月から新体制でスタートし、毎月交代で編集に携わった。

該当月の編集が終了すると次月号編集担当宛に「引継書」を作成し、引き継ぎに漏れがないように取り計らっている。また随時、会長、各副会長、各支部長からのサポートを受けている。2018 年 1 月号 (2017 年 12 月 25 日発行) から 2018 年 12 月号 (11 月 25 日発行) の間に投稿されたものは以下のとおりである。

1) 巻頭言

毎月、会長及び副会長から持ち回りで投稿していただいている。

- 1 月号：仲厚吉 (会長) 【年頭に当たって】
- 2 月号：力利則 (副会長) 【新年度のスタートについて】
- 3 月号：松枝憲司 (副会長) 【IT アセスメント研究会の活動報告】
- 4 月号：小野修一 (会長) 【『システム監査基準』、『システム管理基準』が改訂されます】
- 5 月号：三谷慶一郎 (副会長) 【デザイン思考とシステム監査】
- 6 月号：斎藤茂雄 (副会長) 【協会事務局長を拝命して】
- 7 月号：安部晃生 (副会長) 【経緯、背景を知る】
- 8 月号：斎藤由紀子 (副会長) 【『電子政府(e-gov)法令検索サイト』の利用】
- 9 月号：館岡均 (副会長) 【CSA/ASA 増員により当協会の発展を目指す】
- 10 月号：力利則 (副会長) 【～勉学の秋です～関心を持って具体的に行動しましょう】
- 11 月号：松枝憲司 (副会長) 【システム監査基準・管理基準連絡会について】
- 12 月号：三谷慶一郎 (副会長) 【DX レポートとシステム監査】

2) 投稿記事

編集委員	【めだか】(めだかネーム)	記名投稿
No.202 2018/1 月号 桜井由美子	テーマ：システム監査人に求められる能力 【システム監査人に求められる能力】 (空心菜)	【システム監査の新たな展開】 会員番号 0557 仲厚吉
No.203 2018/2 月号 高橋典子	テーマ：システム監査人に求められる能力 【システム監査人に求められる能力】 (空心菜)	【システム監査人の新たな活躍】 会員番号 0557 仲厚吉 【ICT 部門における BCP への取り組みと課題】 (SAAJ 近畿支部 BCP 研究プロジェクト) 会員番号 1709 荒町弘、2551 伊藤聖子、 1497 尾浦俊行、2645 尾崎正彦、1531 金子 力造、0283 松井秀雄 エッセイ【陰陽師】 会員番号 0707 神尾博
No.204 2018/3 月号 藤澤博	テーマ：システム監査人に求められる能力 【システム監査人に求められる能力】 (空心菜)	【システム監査の新たな活躍】 会員番号 0557 仲厚吉
No.205 2018/4 月号 安部晃生	テーマ：システム監査基準・管理基準改訂 とこれからのシステム監査人 【システム監査基準(案) / システム管理 基準(案) について】 (空心菜)	エッセイ【鉄鼠】 会員番号 0707 神尾博 【総会特集】

No.206 2018/5月号 久保木孝明	テーマ：システム監査基準・管理基準改訂 とこれからのシステム監査人 【システム監査基準（案）／システム管理 基準（案）について】 （空心菜）	【システム監査学会 設立 30 周年記念出版物の 紹介】 会員番号 0356 桜井由美子
No.207 2018/6月号 越野雅晴	テーマ：システム監査基準・管理基準改訂 とこれからのシステム監査人 【システム監査基準／システム管理基準に ついて】 （空心菜）	【時事論評 サイバーセキュリティ教育の欺瞞 と絶望】 会員番号 0707 神尾博
No.208 2018/7月号 竹原豊和	テーマ：システム監査基準・管理基準改訂 とこれからのシステム監査人 【システム監査基準・管理基準改訂とこれ からのシステム監査人】 （空心菜）	【農政の変容と農業構造の現状、農政改革への 提言（「いま蘇る柳田国男の農政改革」を読ん で）】 会員番号 1428 中田和男
No.209 2018/8月号 豊田諭	テーマ：システム監査基準・管理基準改訂 とこれからのシステム監査人 【システム監査基準・管理基準改訂とこれ からのシステム監査人】 （空心菜）	エッセイ【餓者髑髏】 会員番号 0707 神尾博
No.210 2018/9月号 桜井由美子	テーマ：システム監査基準・管理基準改訂 とこれからのシステム監査人 【システム監査基準・管理基準改訂とこれ からのシステム監査人】 （空心菜）	投稿なし
No.211 2018/10月号 福田敏博	テーマ：システム監査基準・管理基準改訂 とこれからのシステム監査人 【システム監査基準・管理基準改訂とこれ からのシステム監査人】 （空心菜）	エッセイ【仙境異聞】 会員番号 0707 神尾博
No.212 2018/11月号 柳田正	テーマ：システム監査基準・管理基準改訂 とこれからのシステム監査人 【システム監査基準・管理基準改訂とこれ からのシステム監査人】 （空心菜）	【基礎自治体の CIO 補佐官というセカンドキャ リアのすすめ】（その 1）匿名 エッセイ【アリの巣の居候】 会員番号 2089 坂口博一
No.213 2018/12月号 山口達也	テーマ：システム監査基準・管理基準改訂 とこれからのシステム監査人 【システム監査基準・管理基準改訂とこれ からのシステム監査人】 （空心菜）	【DX レポートとシステム監査】 会員番号 0608 三谷慶一郎 【基礎自治体の CIO 補佐官というセカンドキャ リアのすすめ】（その 2）匿名 【レジリエンス認証制度から始める IT 事業継続 管理の試み】 （SAAJ 近畿支部 BCP 研究プロジェクト） 会員番号 1709 荒町弘、2551 伊藤聖子、 1497 尾浦俊行、2645 尾崎正彦、1531 金子 力造、0283 松井秀雄 エッセイ【空鉢護法】 会員番号 0707 神尾博

3) 「本部報告」と「支部報告」

【本部報告】（会報掲載順で、報告のあった部会・研究会等）。

- ・月例研究会 : 7 件
- ・活性化委員会 : 1 件
- ・CSA 利用推進グループ : 1 件
- ・法人部会 : 2 件
- ・IT アセスメント研究会 : 4 件
- ・個人情報保護監査研究会 : 10 件
- ・PJM のシステム監査研究会 : 1 件(PJM : プロジェクトマネジメント)

【支部報告】（北から南の順で、報告のあった支部）

- ・北海道支部 : 2 件

- ・北信越支部 : 3件
- ・近畿支部 : 8件

(5) 2018年の会報アワード

会報アワードは編集委員の選考によって下記から選定し、通常総会において発表する。

「めだか」「記名投稿記事」「本部報告」より各1件、「支部報告」より2件を選出する予定である。

(6) 2018年の投稿論文

該当なし。

[> 目次](#)

3. 2. 法人部会

(1) 体制

○主査 : 山口達也

○主たる活動メンバー：小野修一、齊木孔二、齊藤茂雄、真鍋直緒、矢野一男、佐々野未知、加佐見明夫

(2) 法人部会活動の目的

法人部会は、システム監査を業とする企業、およびシステム監査を実施し情報環境の健全化を図ろうとする企業が、協力して活動することによって、システム監査の普及・啓発を図ることを活動の目的としている。またこのような活動を通して会員企業の事業の発展に寄与することを目的としている。

(3) 法人正会員 30社 (2018年末現在)

1) 入会：4社 (K合同会社、(株)ブレインワークス、アクシスインターナショナル(株)、鈴木経営・情報システム研究所)

2) 退会：4社 ((株)DTS、(株)ソフトコム、(株)ナニワ計算センター、(株)エスプランニング)

(4) 活動内容

- 1) 定例会を、適宜、開催した。
- 2) 「関東地区活動説明会」にて法人部会の紹介を行った。
- 3) 「自治体向け情報セキュリティセミナー」の内容を見直し、2018年度版として案内した。
セミナー案内DMを、全国都道府県、関東県の市以上、および東京都23特別区の自治体に送付した。
- 4) 民間企業2社に対して「情報セキュリティ研修」を開催した。
- 5) FISA(情報システム・ユーザー会連盟)主催のシステム監査講演会(2018年10月開催)で企業団体向けセミナー案内、公認システム監査人のご案内等の資料を配布した。
- 6) 定例会にて、会員同士のシステム監査の普及・ビジネス化についての情報交換を行った。

[> 目次](#)

4. 研究会

4. 1. システム監査事例研究会

(1) 体制

○主査 : 野田正勝

○メンバー : 51名(2018年12月現在)

(2) 活動の概要

1) 事例研究会定例会

- ・開催日：原則毎月第一水曜日 19:00~20:30
- ・開催場所 SAAJ協会事務所(茅場町)
- ・内容：11回開催 延べ出席者数 46名

	開催月日	参加人数	内容
1	1月10日	4名	2017年度のまとめと2018年度の活動方針

			課題解決セミナー教材アイデアの検討（京都市事例④）
2	2月7日	3名	課題解決セミナー教材アイデアの検討（京都市事例⑤）
3	3月7日	5名	課題解決セミナー教材アイデアの検討（京都市事例⑥）
4	4月4日	5名	課題解決セミナー教材アイデアの検討（京都市事例⑦）
5	5月9日	5名	この間の活動報告
6	6月6日	4名	課題解決セミナー教材アイデアの検討（京都市事例⑧）
7	7月4日	4名	課題解決セミナー教材アイデアの検討（京都市事例⑨）
8	8月1日	7名	課題解決セミナー教材アイデアの検討（京都市事例⑩）
9	9月5日	1名	中止
10	10月3日	2名	課題解決セミナー教材アイデアの検討（京都市事例⑪）
11	11月7日	4名	課題解決セミナー教材アイデアの検討（京都市事例⑫）
12	12月12日	2名	2018年度のまとめと2019年度の活動方針 課題解決セミナー教材アイデアの検討（京都市事例⑬）

2) システム監査普及サービス

- ・2018年度は4社より照会があった。このうち2社と面談したが受託には至らなかった。
- ・最近の最終実績であるj社については、教材化を検討しているが、中山氏より進め方の提案があった。2019年度の活動の中心としたい。

3) システム監査実務・実践セミナー

- ・2018年度は実務セミナー4日間コースを2回、実践セミナー2日間コースを2回開催した。1996年から実践・実務セミナーは通算63回の開催実績となった。
- ・実務セミナー4日間コースは、3月の土・日コースを9月同様日帰りにした。また、広報・案内方法を強化したところ、近年にない人数の受講者が集まった。9月に開催した平日日帰りコースは最小催行人員割れでの開催となった。
- ・実践セミナー2日間コースは、7月、12月ともに10名の受講者が参加し、安定した開催となった。

	通算	2018年開催日	参加人数	内容
1	第60回	3/3・4、 3/17・18	受講者7名、 講師2名 事務局1名	第31回実務セミナー 土日日帰り4日間コース 場所：東京大久保 関東ITソフトウェア健保会館
2	第61回	7/12・13	受講者10名、 講師3名	第32回実践セミナー 平日日帰り2日間コース 場所：東京晴海 ホテルフクラシア晴海
3	第62回	8/30・31、 9/13・14	受講者4名、 講師2名	第32回実務セミナー 平日日帰り4日間コース 場所：東京品川 フクラシア品川（高輪口）
4	第63回	12/13・14	受講者10名、 講師3名	第33回実践セミナー 平日日帰り2日間コース 場所：東京晴海 ホテルフクラシア晴海

4) 事例に学ぶ課題解決セミナー

- ・年3回の開催を予定していたが、3月と7月の2回の開催となった。12月の開催は、準備の関係で翌年に繰り越した。今年度より一部会場を変更し、コスト削減を図った。また、新教材が増加され、月例定例会で検討した教材アイデアからも1事例を教材化し実施した。

	通算	2018年開催日	参加人数	内容
1	第20回	3/31	受講者26名、 講師2名	事例講義「年金組織の情報漏えい事例」 事例講義「銀行のオンラインシステム障害」 場所：東京曙橋 市ヶ谷健保会館
2	第21回	7/28	受講者9名、 講師2名	事例講義「被災事例に教えられるBCP不足」 簡易演習「証券取引所の株式・CB売買システム障害」 場所：東京御茶ノ水 TKPスター貸会議室

[> 目次](#)

4. 2. 情報セキュリティ監査研究会

(1) 体制

- 主査 : 舘岡均
- メンバー : 斉藤茂雄、大西智、豊田諭、村上進司、福田敏博、山口達也、竹原豊和、佐藤雅英（東北支部）

○オブザーバ：仲厚吉、櫻井俊裕、柳田正、畑野元

(2) 活動の概要

2018年度は2017年度のメンバーにさらに新メンバーを加え、継承して活動を進めた。

1) 活動の進め方

ITにおいては、クラウド、IoT、FinTech、AI等々のように、専門技術の高度化ならびに社会における活用範囲の広がり、ますます速いスピードで進展している。また標的型サイバー攻撃等による甚大な被害が頻繁に発生し、大きな脅威になっており、さらにリスクも多様化しかつ深刻になってきている。この状況下で、次のように活動を進めた。

- ・各メンバーがトピックス、現在あるいは今後着目する調査／研究内容、などを持ち寄り、ITおよびセキュリティについて現状および動向を俯瞰的に把握する。
- ・課題等を整理して、各メンバーの得意分野、興味を持つ「個別の研究テーマ」を研究する。
- ・各メンバーがお互いの考え方を尊重することをベースとするコミュニケーションを図り、全員参加型の活動を目指す。

さらには、次のようなことを考慮して活動を進めた。

- ・各業界、諸団体、専門分野等のそれぞれをセグメンテーションし、メンバーが分担して調査する。
- ・必要に応じて、知見者（他団体、SAAJ会員など）にご参加頂き活動レベルの向上を図る。
- ・CSAフォーラムおよび他の研究会との連携を図る。

2018年の「個別の研究テーマ」は、「情報セキュリティ関連の基準、ガイドライン等の発行、改定の動向調査」であり、具体的には、「情報セキュリティサービス基準」、「情報セキュリティ監査基準／管理基準」、「FISC安全対策基準の改定」、「クラウド監査に関する基準」、「産業サイバーセキュリティの動向」を研究した。

研究成果は、「(2018年度)関東地区主催会員向けSAAJ活動説明会」（2018年10月27日開催）にて、報告した。

2) 定例研究会

- ・定例研究会は月1回（平日）17:00（あるいは18:00）～20:00にSAAJ協会事務所で開催した。

3) 2018年度の定例研究会活動実績

月日	開催回	テーマ
3/27	第1回	<2018年度活動方針> ・2018年度活動方針、計画、役割／担当、活動スケジュール概略、etcを検討 <トピックス> ・「情報セキュリティサービス基準及び情報セキュリティサービスに関する審査登録機 関基準を策定」（2018年2月28日 経済産業省） ・「セキュリティサービス基準説明会」（2018年3月23日 経済産業省主催）
4/25	第2回	<トピックス> ・「金融機関等コンピュータシステムの安全対策基準・解説書（第9版）」及び「金融 機関等におけるIT人材の確保・育成計画の策定のための手引書」の発刊につい て。 （2018年3月30日 公益財団法人 金融情報システムセンター） ・「テレワークセキュリティガイドライン（第4版）の公表」（2018年4月13日総務 省） ・仮想通貨とそのトラブル（コインチェック社の仮想通貨NEM流出事案） <活動テーマ> ・情報セキュリティ関連の基準、ガイドライン等の発行、改定の動向調査
5/31	第3回	<研究会内 講演> 「2018年FISC安全対策基準改定について」 講師：SAAJ安部副会長 参加者：研究会メンバー + 参加希望者

6/26	第4回	<p><トピックス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「サイバー・フィジカル・セキュリティ対策フレームワーク(案)」公表 (2018年4月27日 経済産業省) ・「サイバーセキュリティのカリキュラム標準(案)」を作成し、意見公募 (2018年6月1日 情報処理学会) ・「情報セキュリティサービスに関する審査登録機関の募集」 (2018年6月5日 経済産業省) <p><研究、活動報告></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティサービス基準及び審査登録機関基準の調査 ・情報セキュリティ監査における「レジリエンスエンジニアリング」に関する考察 ・監査基準以外の活用している基準・規格について
7/24	第5回	<p><活動報告></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「情報セキュリティ関連の基準、ガイドライン等の発行、改定」報告書レビュー ・「(2018年度)関東地区主催会員向け SAAJ 活動説明会」における情報セキュリティ監査研究会の報告内容(骨子)をレビュー
8/29	第6回	<p><トピックス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新たなサイバーセキュリティ戦略」を公表 (2018年7月27日 内閣サイバーセキュリティセンター) ・「クラウドサービス提供における情報セキュリティ対策ガイドライン(第2版)」を公表 (2018年7月31日 総務省) <p><活動報告></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「(2018年度)関東地区主催会員向け SAAJ 活動説明会」における情報セキュリティ監査研究会の報告内容をレビュー (「情報セキュリティサービス基準」、「情報セキュリティ監査基準/管理基準」、「FISC 安全対策基準の改定」、「クラウド監査に関する基準」、「産業サイバーセキュリティ」)
9/27	第7回	<p><トピックス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「DXレポート～ITシステム「2025年の崖」の克服とDXの本格的な展開～」 (2018年9月7日 経済産業省) <p><活動報告></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「(2018年度)関東地区主催会員向け SAAJ 活動説明会」における情報セキュリティ監査研究会報告の内容確認
11/27	第8回	<p><2018年度活動まとめ、2019年度活動方針></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年度研究会の活動の振り返り、2019年度研究会活動の方針についての検討 <p><トピックス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・IoT 機器認証について (2018年11月27日 「重要生活機器連携セキュリティ協議会」) ・「地方公共団体の情報セキュリティポリシーと情報セキュリティ監査のガイドラインを改訂」 (2018年9月25日 総務省) <p><活動報告></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「(2018年度)関東地区主催会員向け SAAJ 活動説明会の情報セキュリティ監査研究会の報告」についてのアンケート結果

[> 目次](#)

4. 3. ITアセスメント研究会

(1) 体制

○主査 : 松枝憲司

○メンバー : 上田徹、小野修一、桜井由美子、清水恵子、高野浩平、力利則、豊田諭、仲厚吉、成田和弘、野嶽俊一、原善一郎、増田秀明、松尾正行

(2) 活動の概要

ITサービスの提供者と利用者双方における適切な管理を維持・向上させる活動を、ITアセスメントとしてとらえて、それに必要な活動領域に関する研究を行うことを目的に、新たにメンバーを募集して2016年10月に従来の「システム監査基準研究会」から「ITアセスメント研究会」に衣替えし活動している。

(3) 研究項目

1) ITガバナンスに関連する事項

ISO38503 (Assessment of the governance of IT) のISO化の支援

- ・6/4-6/8 ポルトガルのリスボンで開催された ISO 国際会議参加した。(松尾)
NWIP38503 の正式承認を受けて WD (ワーキングドラフト) の作成を開始した。
 - ・11/19-23 オーストラリアのシドニーで開催された ISO 国際会議参加した。(松尾)
WD2 の検討結果を受けて WD3 の作成後、CD (コミティドラフト) の作成を目指すことになった。
 - ・ISO 会議の間は、Web 会議により 1~2 週間毎に各国メンバーとの検討を進めた。
- 2) 新システム監査基準・管理基準の改訂、活用等
- ・「システム監査に関する検討会」で策定した「新システム監査基準とシステム管理基準」が、経済産業省より 4/21 に公表された。
 - ・新システム監査基準と管理基準をテーマとしたセミナーを実施した。
 - ・5/19 特別月例研究会「システム監査基準/管理基準の改訂について」
(作成に関わった 4 団体の講師による)
 - ・5/26 中部支部例会「システム監査基準/管理基準の改訂について」(講師：カ)
 - ・6/30 近畿支部 30 周年記念シンポジウム「システム監査基準/管理基準のポイント」(講師：松枝)
 - ・システム管理基準の活用を目的にして、新システム管理基準項目についてサブコントロール(案)を検討した。
 - ・システム監査・管理基準連絡会議(基準改訂に参画した団体を中心に基準の活用を目的に設けた連絡会議)が 3 回(1 回/2 ヶ月)開催され、SAAJ として参加した。(カ・松枝)
- (4) 研究会の開催
- テーマ「ISO38503」と「システム管理基準」別に開催し、合計で 1 月より 14 回研究会を開催した。

[> 目次](#)

4. 4. 個人情報保護監査研究会

(1) 体制

○主査 : 斎藤由紀子

○メンバー : 斎藤茂雄、柴田幸一、仲厚吉、林昭夫、藤澤博、村上進司、吉谷尚雄

(2) 活動の概要

個人情報保護監査研究会(斎藤由紀子主査)は、2014 年 12 月 10 日に発刊した、6 か月で構築する「個人情報保護マネジメントシステム実施ハンドブック(同文館出版社発行、以下 PMS 実施ハンドブック)」の PMS 様式集ダウンロードサイトを開設し、新規 P マーク適格性認証取得事業者だけでなく、更新申請事業者にも活用していただいている。JIS Q 15001:2017 が公表された後も、「3320 法令・指針・規範集」については 2018 年度も引き続き随時更新している。

月次定例会においては、個人情報保護法関連の法令の改正、個人情報保護法ガイドライン、JIS Q 15001:2017 版(2017 年 12 月 20 日公表)、EU 一般データ保護規則(GDPR)等について、読み合わせを行い、研究会活動への影響の有無を確認しつつ、各メンバーのスキルアップを図った。

(3) 2018 年の活動状況(定例研究会開催実績)

月日	開催回	テーマ
2/18	第 1 回	・「JIS Q 15001:2017」と旧 JIS との違いについて ・会報に「JIS Q 15001:2017 について」を連載することを決定 ・「プライバシーマーク付与適格性審査基準」2018/1/12 版 (旧審査基準 369 項目 →新基準:126 項目)
2/21	第 2 回	・GDPR 関連:外国に拠点を持っている事業者の審査ポイント ・会報 204 号(3月号)より連載開始「JIS Q 15001:2017 について」
3/1	第 3 回 (臨時)	・「プライバシーマーク付与適格性審査基準」2018/1/12 版読み合わせ ・会報 205 号(4月号)連載「JIS Q 15001:2017 について」
3/22	第 4 回	・「JIS Q 15001:2017」の誤記、P マーク制度 Q&A の訂正内容などを反映 ・近畿支部 3 月度研究会発表「JIS Q 15001:2017」講師:斎藤由紀子 ・「3300 個人情報取扱規程」改正 JIS 対応作業開始
4/18	第 5 回	・会報 206 号(5月号)連載「JIS Q 15001:2017 と個人情報取扱規程」 ・新 JIS 口語訳の読み合わせ(新 JIS 様式集への反映検討) ・4/22~24:研修旅行「伊勢・大和・大阪」

5/16	第 6 回	・英文の個人情報保護方針の検討 ・会報 207 号 (6 月号) 連載「JIS Q 15001:2017 と個人情報取扱規程」
6/20	第 7 回	・新審査様式と、PMS 様式集への反映検討 ・会報 208 号 (7 月号) 連載「JIS Q 15001:2017 と個人情報取扱規程」 ・6/28～29 箱根研修会
7/18	第 8 回	・新審査様式と、PMS 様式集への反映 ・会報 209 号 (8 月号) 連載「JIS Q 15001:2017 と個人情報取扱規程」
8/22	第 9 回	・「プライバシーマーク付与適格性審査基準」の改定について ・2014 年版ダウンロードサイトの更新:「法令・指針・規範集」「改正 JIS 申請書類」 ・GDPR 関連:「個人情報保護法第 24 条に基づく EU の指定について」研究 ・会報 210 号 (9 月号) 連載「JIS Q 15001:2017 と個人情報取扱規程」
9/19	第 10 回	・「3429 匿名加工情報取扱規程」の策定 ・新 JIS 審査様式と、PMS 様式集への反映 ・会報 211 号 (10 月号) 連載「JIS Q 15001:2017 と個人情報取扱規程」 ・9/30～10/1 : 上田研修旅行
10/17	第 11 回	・「3429 匿名加工情報取扱規程」および様式策定 ・会報 212 号 (11 月号) 連載「JIS Q 15001:2017 と個人情報取扱規程」 ・「PMS 実施ハンドブック第 2 版」スケジュール検討開始
11/21	第 12 回	・「MCF モバイルコンテンツガイドライン」研究 ・10/27 会員向け活動説明会 実施報告 講師: 仲厚吉 ・11/17 西日本合同研究会説明資料 講師: 斎藤由紀子 ・会報 213 号 (12 月号) 連載「JIS Q 15001:2017 と個人情報取扱規程」 ・「PMS 実施ハンドブック第 2 版」スケジュール調整
12/28	第 13 回	・「PMS 実施ハンドブック第 2 版」読み合わせ: 監修に寄せて～序章 6
12/5	第 14 回	・「PMS 実施ハンドブック第 2 版」読み合わせ: 第 1 章～第 4 章、第 25 章
12/12	第 15 回	・「PMS 実施ハンドブック第 2 版」読み合わせ: 第 5 章～第 8 章、第 26 章
12/19	第 16 回	・「PMS 実施ハンドブック第 2 版」読み合わせ: 第 9 章～第 12 章
12/26	第 17 回	・「PMS 実施ハンドブック第 2 版読み合わせ: 第 13 章～第 16 章、第 27 章 ・会報 214 号 (2019 年 1 月号) 連載「JIS Q 15001:2017 と個人情報取扱規程」終結 ・2019 年度の活動計画

[> 目次](#)

4. 5. プロジェクト監査研究会 (前: プロジェクトマネジメントのシステム監査研究会)

(1) 体制 (2018 年 3 月まで)

○主査 : 原田憲幸

○メンバー : 力利則、斎藤茂雄、桜井由美子、清水恵子、浦田有佳里、小山恵一郎、野嶽俊一、堀学

(2) プロジェクトマネジメントのシステム監査研究会活動の概要

- ・2014 年 12 月から 3 年間、「情報システム開発における大トラブルの未然防止」をテーマに「発注者のプロジェクトマネジメント」と「プロジェクト監査」について検討し、成果の出版を目指して執筆活動を行ってきた。
- ・2018 年 3 月、本「発注者のプロジェクトマネジメントと監査」を同文館から出版し目的を達成したので研究会を終結。新たに「プロジェクト監査」に絞った研究会を立ち上げることとした。
- ・2018 年 12 月、初版 1,200 部の出版社在庫が足りなくなり、年明けに 2 版を増刷予定

(3) 体制 (2018 年 4 月から) (15 名: 本部 10 名、支部 5 名)

○主査 : 原田憲幸 (理事)、(本部側司会) 大野勇進、(支部側司会) 原善一郎

○企画/完了監査チーム :

(リーダ(本部側)) 細川健一、(サブリーダ) 森内正美、園田博、田村修

○設計開発監査チーム :

(リーダ) 大野勇進、寺沢晴夫、原田憲幸、加藤智康[中部]

○監査全体チーム :

(リーダ) 結城健一、和手信泰、片山邦彦、杉谷博史[近畿]

(4) プロジェクト監査研究会活動の概要

- 1) 目的: “システム開発を成功に導くプロジェクト監査”のガイドライン、チェックリストの作成

- 2) 方針：
 - ・「システム開発を成功に導く」に絞った「プロジェクト監査」について整理する
 - ・プロジェクト監査の現場で直ぐに役立つガイドライン、チェックリストを提供する
 - ・改訂版の「システム監査基準」「システム管理基準」と整合させる
 - ・Web会議を使い、遠隔のSAAJ支部会員も参加し、本部と合同で成果をまとめる
 - ・メンバーは複数のチームに分かれて検討を進め、全体会で調整する
- 3) 4月に新研究会を発足。プロジェクト監査の定義、ゴール、成果物、検討の進め方、検討体制など、全体の方向性について意識合わせした後、予定通り10月よりチーム別の検討を開始した。今後、1年かけて検討を進め、2019年12月に成果物1版を出す予定。
- 4) 全体会議（Web会議）2018年4月20日第1回、6月22日第2回、7月20日第3回、8月24日第4回、9月28日第5回、10月19日第6回、11月16日第7回、12月21日第8回。
- 5) チーム別検討：チーム毎にメール、電話、Web会議で適宜開催中。
- 6) 企画／完了監査チーム
 - ・「システム開発企画、外部委託先選定、プロジェクト計画」の監査の観点、監査項目について検討中。プロジェクト計画の監査チェックリストの検討中
 - ・「サービス開始フェーズ」のプロジェクト監査の観点について検討中
- 7) 設計開発監査チーム
 - ・「設計開発フェーズ」のプロジェクト監査の契機を整理し、それぞれの概要と監査の観点を整理中
- 8) 監査全体チーム
 - ・研究会の全体スケジュールを整理
 - ・「プロジェクト監査の定義、ガイドライン、チェックリスト」について整理中

[> 目次](#)

5. 支部

5. 1. 北海道支部

5. 1. 1. 支部体制

- 支部長 : 宮崎 雅年
- 副支部長 : 小林 弘幸
- 会計 : 谷口 泰正
- 研究会 : 宮崎 雅年、伊藤 淳一
- 広報 : 曾根本 育裕
- 監事 : 大館 広之

5. 1. 2. 第17回支部総会実施

(1) 日時 : 2018年12月7日(金) 18:30~18:45 参加者 : 5名、委任4名

(2) 内容 :

- 1) 2018年活動報告、2019年活動計画
- 2) 2019年役員選出、2019年研究会計画
- 3) 2018年会計報告および2019年会計予算について

5. 1. 3. 定例研究会・勉強会実施

(1) 1月研究会 参加者 : 5名

- 1) 日 時 : 2018年1月12日(金) 18:30~20:30
- 2) テーマ : 「AIスピーカーとシステム監査」
 - ・研究発表とディスカッション
 - ・発表者 : 宮崎 雅年 氏

(2) 2月研究会 参加者 : 5名

- 1) 日 時 : 2018年2月19日(月) 18:30~20:30
- 2) テーマ : 「個人情報保護ガイドライン ~意外と知られていない変更点、必要な備えについて~」
 - ・研究発表とディスカッション
 - ・発表者 : 菊地 圭 氏

(3) 3月研究会 参加者 : 3名

- 1) 日 時 : 2018年3月9日(金) 18:30~20:30
- 2) テーマ : 「事業者が考えるデータ利用及び今後の展望や課題」
 - ・第228回研究会のビデオ上映とディスカッション

(4) 4月研究会 参加者 : 6名

- 1) 日 時 : 2018年4月23日(月) 18:30~20:30
- 2) テーマ : 「IoTのセキュリティ、現在そして未来」
 - ・研究発表とディスカッション
 - ・発表者 : 谷口 泰正 氏

(5) 5月研究会 参加者 : 2名

- 1) 2018年5月18日(金) 18:30~20:30
- 2) テーマ : 「人口知能研究の最新情報 -インタラクティブな人口知能を目指して-」
 - ・第17期総会のビデオ上映とディスカッション

(6) 6月研究会 参加者 : 3名

- 1) 日 時 : 2018年6月22日(金) 18:30~20:30
- 2) テーマ : 「システムの不具合がもたらす社会的影響 : ある損害賠償係争事件を巡って」
 - ・第231回研究会のビデオ上映とディスカッション

(7) 7月研究会 参加者 : 5名

- 1) 日 時 : 2018年7月30日(月) 18:30~20:30
- 2) テーマ : 「システム管理基準の改訂の概要」
 - ・第232回月例研究会(後半)のビデオ上映とディスカッション

- (8) 8月研究会 参加者：4名
 1) 日時：2018年8月27日(月) 18:30～20:30
 2) テーマ：「システム監査基準の改訂の概要」
 ・第232回研究会(前半)のビデオ上映とディスカッション
- (9) 9月研究会 参加者：3名
 1) 日 時：2018年9月27日(木) 18:30～20:30
 2) テーマ：「残念なBCPとこれからのBCP」
 ・第230回研究会のビデオ上映とディスカッション
- (10) 10月研究会 参加者：3名
 1) 日 時：2018年10月16日(火) 18:30～20:30
 2) テーマ：「事例から学ぶ「発注者視点のプロジェクトマネジメントと監査」～「発注者のプロジェクトマネジメントと監査」出版記念～」
 ・第235回研究会のビデオ上映とディスカッション
- (11) 11月研究会 参加者：4名
 1) 日 時：2018年11月16日(金) 18:30～20:30
 2) テーマ：「ITガバナンスの国際標準化(ISO/TEC38500シリーズ)の最新動向とその取り組み」
 ・第229回研究会のビデオ上映とディスカッション

5. 1. 4. 広報活動

- (1) 支部活動について対外的に広報、および支部員勧誘を行った。
- (2) 他団体との交流：
 ・北海道ITコーディネータ協議会との講演会共催、勉強会の相互開放
- (3) 支部員の変動：
 1) 2017年度 個人会員16名、法人会員4名
 2) 2018年度 個人会員13名、法人会員3名（個人会員3名減、法人会員1名減）
 3) 支部活動への参加：上記以外に非会員のべ11名参加

5. 1. 5. 本部総会への支部員派遣

2018年2月23日に東京で開催された本部の第17期総会へ支部員1名を派遣し、他支部と交流した。

5. 1. 6. メーリングリストによる連絡

支部メーリングリストにより、支部員間の連絡および情報交換を実施している。

5. 1. 7. ホームページによる情報発信

協会のホームページの支部のコーナーに、北海道支部の情報を記載している。

5. 1. 8. Facebookによる情報発信

Facebook上に北海道支部のページを開設して北海道支部の情報を投稿している。12月5日現在35名がフォローしている。

[> 目次](#)

5. 2. 東北支部

5. 2. 1. 支部体制

- 支部長 : 横倉正教
- 副支部長 : 佐藤雅英
- 会計 : 櫻谷昭慶
- 研究広報 : 佐藤雅英(兼務)、後藤武志
- 監事 : 成田由加里
- 顧問 : 鈴木実

5. 2. 2. 「ITCみやぎ・SAAJ東北、JISTA東北 ワークショップ2018」 & 「JISTA 2018全国大会 in 仙台」(同時開催)

- 1) 日程 : 2018年6月23日(土) 13:30~17:30
- 2) 場所 : (仙台市) 東北大学 さくらホール
- 3) 主催 : <ワークショップ2018>
ITコーディネータ宮城会 (ITCみやぎ)
日本システム監査人協会東北支部 (SAAJ 東北)
日本 IT ストラテジスト協会東北支部 (JISTA 東北)
<JISTA 2018 全国大会 in 仙台>
日本 IT ストラテジスト協会 (JISTA)
後援 : NPO 法人 IT コーディネータ協会
- 4) 内容 : (参加者 : 76名) (ITCみやぎ : 6名、SAAJ : 5名、JISTA : 40名、一般 : 13名、重複あり)
 - ・開講式 主催者挨拶
 - <ワークショップ 2018>
 - ・講演1 「復興の先にある現実」～これからの地方都市のあり方～
宮城大学事業構想学群 教授 舟引敏明 氏
 - ・講演2 「IoT による地域企業の経営課題の解決」
山形大学大学院 理工学研究科 教授 田中陽一郎 氏
 - <JISTA 全国大会 : アート×ICT 東北から STEAM とクールジャパンを考える>
 - ・JISTA 会長挨拶
 - ・講演3 「アートとデザインと ICT」
秋田公立美術大学 副学長・教授 藤浩志 氏
 - ・講演4 「クールジャパンとものづくり IoT」
～Kawaii 人形とデジタルエンジニアリング～
株式会社デザインココ 代表取締役社長 千賀淳哉 氏

5. 2. 3. 定例研究会及び役員会

(1) 2月例会

- 1) 日程 : 2018年1月4日 (土) 14:15~17:15
- 2) 会場 : (仙台市) エスクリブ株式会社/会議室
- 3) 内容 : (参加者 : 4名)
 - ・研究会活動について
: 2018 年度テーマ 「IoT の実情 (事例) とリスク」
 - ・「IoT 関連の情報収集・現状 (事例等) 」についての討議
 - ・次回までの分担課題を決定

(2) 3月例会

- 1) 日程 : 2018年3月24日 (土) 14:00~17:00
- 2) 会場 : (仙台市) エスクリブ株式会社/会議室
- 3) 内容 : (参加者 : 5名、講師 1名を含む)
 - ・IoT 事例講演 (コー・ワークス 武田氏)
 - ・講演及び関東経産局の IoT 事例を元にディスカッション
 - ・「IoT の実情 (事例) とリスク」の調査報告 (櫻谷氏)

(3) 5月例会

- 1) 日程 : 2018年5月13日 (土) 14:00~17:00
- 2) 会場 : (仙台市) エスクリブ株式会社/会議室
- 3) 内容 : (参加者 : 4名)
 - ・ITCA の IoT 事例の分類調査報告と討議

(4) 7月例会

- 1) 日程 : 2018年7月7日(土) 13:00~15:00
- 2) 会場 : (仙台市) エスクリブ株式会社/会議室

- 3) 内容：（参加者：4名）
 - ・新システム監査基準、システム管理基準について
 - ・ITCA の IoT 事例の分類調査報告と討議
- (5) 9月例会
 - 1) 日程：2018年9月8日（土） 14:00～17:00
 - 2) 会場：（仙台市） エスク립株式会社／会議室
 - 3) 内容：（参加者：4名）
 - ・新監査基準・管理基準についての説明会の質疑応答の視聴
（5/19 に協会本部で開催された第 232 回月例研究会のビデオの質疑応答部分の視聴）
 - ・IoT 関連事例を用いて、監査時のチェック項目等の検討
- (6) 11月例会&役員会
 - 1) 日程：2018年11月24日（土） 14:00～17:00
 - 2) 会場：（仙台市） エスク립株式会社／会議室
 - 3) 内容：（参加者：4名）
 - ・役員会：支部総会について（総会議案書、総会案内、2019 年度役員）
 - ・研究会：IoT 関連事例を用いて、監査時のチェック項目等の検討

5. 2. 4. 広報宣伝活動

- ・「ITC みやぎ・SAAJ 東北・JISTA 東北 ワークショップ 2018」において、システム監査の普及および支部活動の宣伝を行った。

[> 目次](#)

5. 3. 北信越支部

5. 3. 1. 支部体制

- 支部長：宮本茂明（石川）
- 副支部長：梶川明美（富山）
- 会計：長棟 隆（富山）
- 監事：梶川明美（富山）
- 県部会長：小嶋潔（福井）、福田和夫（石川）、國谷吉英（富山）、
風間一人（新潟）、長谷部久夫（長野）
- 顧問：森広志（富山）

5. 3. 2. 年度目標と実績

支部会員の能力向上と支部の技術基盤向上を目指す。

- (1) 会員相互の研鑽によるシステム監査技術の向上
 - ・西日本支部合同研究会での支部報告検討を通し、システム監査・情報セキュリティ監査・システムリスク管理等、会員の担当業務の課題や研究活動に関する情報共有・意見交換により、課題解決への方向性等の気付きの場を設けた。
- (2) 本部、他支部との交流による知識、技術力の向上
 - ・研究会ビデオの貸出し運営。（地域別上映）
 - ・西日本支部合同研究会を監事支部として開催。
- (3) プレゼンテーション能力の向上
 - ・研究報告プレゼンテーションの場を活用。
- (4) インターネットを活用した組織コミュニケーションの向上
 - ・メーリング・リストを活用した西日本支部合同研究会報告テーマに関する意見交換。
- (5) 会員増強／システム監査の普及・啓発
 - ・一般の方も参加可能な、支部総会・研究会、西日本支部合同研究会を開催。

5. 3. 3. 活動報告

- (1) 北信越支部年度総会 2018年3月10日(土) (富山市 富山県民会館) [参加:12名]
- 1) 支部年度総会
 - ・昨年度活動報告と今年度活動計画について
 - ・昨年度会計報告と今年度会計計画について
 - 2) 本部総会報告
 - 3) 研究報告
 - ・「サイバーセキュリティ経営ガイドライン」の改訂について 梶川 明美 氏
 - ・「FISC 安全対策基準 第9版について」 長谷部 久夫 氏
 - ・「データ利活用のシステム監査を考える」(意見交換) コーディネータ:宮本 茂明 氏
 - 4) 西日本支部合同研究会-北信越支部報告検討
- (2) 福井県例会 2018年6月2日(土) (福井市総合ボランティアセンター) [参加:7名]
- 1) 研究報告
 - ・「RPA(Robotics Process Automation)導入にあたっての考慮点」長谷部 久夫 氏
 - ・「米国政府調達におけるセキュリティ・ベースラインとアセスメント」宮本 茂明 氏
 - 2) 西日本支部合同研究会北信越支部報告検討
- (3) 長野県例会 2018年9月8日(土) (長野市生涯学習センター) [参加:9名]
- 1) 研究報告
 - ・「オープン API について」 長谷部 久夫 氏
 - ・「内部統制後の考察」 森 広志 氏
 - 2) 西日本支部合同研究会準備検討
 - ・北信越支部報告検討・意見交換
 - ・プログラム案、情報交流会、翌日視察等
- (4) 西日本支部合同研究会 in Fukui 2018年11月17日(土)
(福井市地域交流プラザ) [参加:20名]
- 1) テーマ:「データ利活用とシステム監査」
 - 2) 報告:
 - 『JIS Q 15001:2017 と規程類の改定について
日本システム監査人協会 副会長 斎藤 由紀子 氏
 - 『JIS Q 15001:2017 を基準としたシステム監査』
日本システム監査人協会 九州支部 支部長 船津 宏 氏
 - 『ブロックチェーンとシステム監査』
日本システム監査人協会 近畿支部 永田 淳次 氏
 - 『公開データ活用事例:基礎自治体の IT ガバナンス・マネジメント課題の現状調査』
日本システム監査人協会 中部支部 大友 俊夫 氏
 - 『キャッシュレス社会におけるデータ利活用とシステム監査』
日本システム監査人協会 北信越支部 長谷部 久夫 氏
- (5) 石川県例会 2018年12月8日(土) (金沢市勤労者プラザ) [参加:10名]
- 1) 研究報告
 - ・「キャッシュレス社会におけるデータ利活用とシステム監査」 長谷部 久夫 氏
 - ・西日本支部合同研究会報告テーマに関する意見交換
 - 2) 2019年度計画意見交換

[> 目次](#)

5. 4. 中部支部

5. 4. 1. 支部体制

○支部長 : 久保田 秀男 (理事) (研究会担当)

- 副支部長 : 安井 秀樹 (理事) (イベント担当)
- 会計担当 : 鈴木 尚
- 会計監査 : 早川 晃由
- 監事 : 栗山 孝祐
- 顧問 : 大友 俊夫
- 顧問 : 田中 勝弘(本部研究会ビデオ管理担当)

5. 4. 2. 活動方針

- (1) 中部支部内会員の継続的な相互研鑽・交流を図る。
- (2) 中部支部以外の地域や団体との情報交流を積極的に展開していく。

5. 4. 3. 活動内容

- (1) 第1回研究会 (ISACA 名古屋支部、システム監査学会 (中部地区システム監査研究会) との共催)

- 1) 日時 : 2018年1月20日 (土) 15:00~18:00
- 2) 場所 : PwCあらた有限責任監査法人 会議室 (JRセントラルタワーズ 38F) SAAJ参加8名
- 3) 内容 :
 - ・「ICT 社会におけるリスク対応と危機管理」
国立大学法人横浜国立大学 リスク共生社会創造センター センター長 野口和彦 氏

- (2) 第2回研究会

- 1) 日時 : 2018年3月24日 (土) 14:00~17:00
- 2) 場所 : 岐阜市 ハートフルスクウェアG研修室50 参加10名
- 3) 内容 :
 - ・「流通 BMS について」 SAAJ 中部支部 加藤智康氏

- (3) 第3回研究会

- 1) 日時 : 2018年5月26日 (土) 14:00~17:00
- 2) 場所 : ORE名古屋伏見ビル8階E会議室 参加: 25名 (うちSAAJ 13名)
- 3) 内容 :
 - ・「システム監査/管理基準の改訂について」 SAAJ 副会長 力 利則氏

- (4) 第4回研究会 (台風のため中止)

- 1) 日時 : 2018年7月28日 (土) 14:00~17:00

- (5) 第5回研究会

- 1) 日時 : 2018年9月8日 (土) 14:00~17:00
- 2) 場所 : ORE名古屋伏見ビル8階E会議室 参加: 13名
- 3) 内容 :
 - ・「自動車業界におけるRFID標準化」 SAAJ 中部支部 山崎敏夫氏
 - ・「保守切れ」に関する情報交換

- (6) 第6回研究会

- 1) 日時 : 2018年12月1日 (土) 14:00~17:00
- 2) 場所 : ORE名古屋伏見ビル8階E会議室 参加: 11名
- 3) 内容 :
 - ・「公開データ活用事例 基礎自治体のITガバナンス・マネジメント課題の現状調査」
SAAJ 中部支部 大友 俊夫氏
 - ・総会
 - ・2018年活動報告
 - ・2019年活動方針・計画

5. 4. 4. イベント

- (1) 「2018年度日本システム監査人協会西日本支部合同研究会 in Fukui」

- 1) 日時 : 2018年11月17日(土)13:00-17:00
- 2) 場所 : AOSSA 6F 福井市地域交流プラザ 研修室605 SAAJ 中部支部参加: 5名

3) 内容：「データ利活用とシステム監査」

4) 中部支部発表

- ・『公開データ活用事例 基礎自治体の IT ガバナンス・マネジメント課題の現状調査』
大友 俊夫 氏

[> 目次](#)

5. 5. 近畿支部

5. 5. 1. 支部体制

(1) 支部役員：

○理事（支部長／BCP 研究プロジェクト／IT サービスグループ）	荒町弘
○理事（副支部長／会計／教育サービスグループ）	福本洋一
○理事（副支部長／教育サービスグループ）	荒牧裕一
○担当役員（IT サービスグループ／教育サービスグループ）	是松徹
○担当役員（教育サービスグループ）	山本全
○担当役員（教育サービスグループ）	三橋潤
○担当役員（IT サービスグループ）	下田あずさ
○担当役員（システム監査法制化推進プロジェクト）	田淵隆明
○担当役員（システム監査法制化推進プロジェクト）	神尾博
○担当役員（BCP 研究プロジェクト）	松井秀雄
○監事	浦上豊蔵

(2) 支部参与：

安本哲之助、吉田博一

(3) サポーター：

松本拓也、植垣雅則、尾浦俊行、金子力造、川端純一、近藤博則、中田和男、吉谷尚雄、阪口博一、伊藤聖子、尾崎正彦、岩崎真明、小河裕一、浜田恒彰

※サポーターには定例研究会受付など支部の基幹的活動へ少しでも参画いただきます。

5. 5. 2. 活動方針

- ・定例研究会、システム監査勉強会を基本として、研究プロジェクト・グループ活動を通じて実践的な研鑽活動を行い、支部活動を充実する。また、支部役員会・サポーター会議の計画的な開催と課題管理等により支部運営のマネジメントを実施する。
- ・協会本部のシステム監査活性化プロジェクトの活動に連動して、支部会員の増強に努める。
- ・今年近畿支部設立 30 周年の年であるため、記念イベントの開催を通じて会員・非会員を問わず多くの方に対して、システム監査の必要性等を広くお伝えし、興味を持っていただき、会員数の増加につながるようなイベントとなるよう企画・実施する。
- ・各活動については事業別の採算状況の可視化を行うことで財務の健全化と事業戦略策定への活用を行い、近畿支部財政状況の改善を目指す。

5. 5. 3. 支部総会

(1) 日時：1 月 19 日（金） 場所：大阪大学中之島センター

(2) 出席者：26 名、委任状：39 名

(3) 議題

- 1) 支部体制について
- 2) 2017 年度事業報告／決算報告
- 3) 2018 年度事業計画／予算計画

全て異議なく承認された。

5. 5. 4. 支部役員会・サポーター会議

支部活動の報告、今後の活動について、支部役員、及びサポーター各位と討議した。場所は、大阪大学中之島センター。

(1) 支部役員会 3月30日 7月6日 9月28日 11月30日

(2) サポーター会議 7月6日 11月30日

5. 5. 5. 近畿支部 30周年記念シンポジウム

2018年度は近畿支部発足30周年の節目の年であったため、統一テーマを「システム監査@ニューフロンティア」として近畿支部30周年記念シンポジウムを開催した。シンポジウムには約100名の参加を得ることができ、盛況のもとで記念イベントを終えることができた。

開催日時：2018年6月30日(土) 13:00~17:00

テーマ：「システム監査@ニューフロンティア」

講演1：新システム監査基準/管理基準のポイント

講師：SAAJ 副会長 (株)ビジネスソリューション 代表取締役 松枝 憲司 氏

講演2：地方自治体のICT監査に求められる役割と課題について

講師：大阪市行政委員会事務局 監査部 ICT監査担当課長 片岡 学 氏

講演3：ブロックチェーン技術とシステム監査

講師：日本情報システムコンサルタント協会 副理事長 永田 淳次 氏

パネルディスカッション：「次世代を担うシステム監査のあり方について」

モデレーター：荒町氏

パネラー：松枝氏、片岡氏、永田氏、吉田博一氏

5. 5. 6. グループ活動

(1) 教育サービスグループ

支部が主催する定例研究会、及びシステム監査勉強会の運用を通して、支部会員に教育サービスを提供した。主な成果物は以下の通りである。

1) 定例研究会：6回開催(1,3,5,9,11,12月) ※詳細は下記を参照。

2) システム監査勉強会：4回開催(2,4,8,10月) ※詳細は下記参照。※6月は近畿支部30周年シンポジウム開催のため未開催。

3) 上記サービス提供にあたっての、講師手配、当日受付、情報交換会開催等の円滑な運営。

4) 運営計画書(TODO管理ツール)による運営。

・主査：荒牧裕一氏 副主査：是松徹氏、副主査：福本洋一氏、副主査：三橋潤氏 : 他11名

【定例研究会】

1) 第171回 1月19日(金) 出席者：41名

「地方自治体におけるICT監査の現状と課題」

講師：大阪市行政委員会事務局 監査部 ICT監査担当課長

CISA、公認システム監査人、システム監査技術者、システムアナリスト、
システム監査学会理事 片岡 学 氏

2) 第172回 3月16日(金) 出席者：33名

テーマ：「【JIS Q 15001:2017】～SAAJ個人情報保護監査研究会の考察～」

講師：認定NPO日本システム監査人協会 副会長・事務局長

個人情報保護監査研究会主査、プライバシーマーク主任審査員 斎藤 由紀子 氏

3) 第173回 5月19日(金) 出席者：23名

テーマ：「公会計の複式簿記・発生主義会計がスタート。そのシステム監査上の課題は？」

講師：ジョイント・ホールディングス(株)IFRSグループ・ディレクター

公認システム監査人、公共政策・IFRSコンサルタント 行政書士 田淵 隆明 氏

4) 第174回 9月21日(金) 出席者：34名

テーマ：「AI・データの利用に関する契約の実務

～AI・データの利用に関する契約ガイドラインを踏まえて～」

講師：特定非営利活動法人日本システム監査人協会 近畿支部 副支部長

弁護士、システム監査技術者、公認システム監査人 福本 洋一 氏

5) 第175回 11月16日(金) 出席者: 27名

テーマ: 「保証型システム監査の実施方法に関する考察～特定個人情報保護
評価書を活用した保証型システム監査の可能性について～」

講師: 株式会社ボックス 代表取締役 NPO 情報システム監査普及機構 理事
上級システムアドミニストレータ、公認システム監査人 金子 力造 氏

6) 第176回 (ISACA大阪支部合同講演会) 12月15日(土) 出席者: 36名

テーマ: 「ガバナンスを考える

～企業社会でのガバナンスと多様な健全化対策の位置付け～

講師: 大阪成蹊大学名誉教授 大阪経済法科大学客員教授
大阪市立大学大学院都市経営研究科非常勤講師 松田 貴典 氏

【システム監査勉強会】

1) 第59回 2月17日(土) 出席者: 42名

SAAJ 本部第 226 回/227 回月例研究会の DVD を視聴。

テーマ 1: 「システム監査の課題と将来」 ～システム監査人に求められること～

講師: 東洋大学 総合情報学部 教授 博士(工学) 島田 裕次 氏

テーマ 2: 「経営高度化のための最新のリスクマネジメント」

講師: 横浜国立大学 リスク共生社会創造センター センター長
大学院 環境情報研究院 教授 野口 和彦 氏

2) 第60回 4月21日(土) 出席者: 33名

SAAJ 本部第 228 回/229 回月例研究会の DVD を視聴。

テーマ 1: 「事業者が考えるデータ利用及び今後の展望や課題」

講師: 日本情報経済社会推進協会 常務理事 電子情報活用研究部担当 (部長兼務)
認定個人情報保護団体事務局担当 坂下 哲也 氏

テーマ 2: 「IT ガバナンスの国際標準化 (ISO/IEC 38500 シリーズ) の最新動向とその取り組み」

講師: SAAJ IT アセスメント研究会 有志
松尾 正行 氏 (ISO/IEC JTC1/SC40 WG1 メンバー)
カ 利則 氏 (ISO/IEC JTC1/SC40 専門委員 & WG1 メンバー)

3) 第61回 8月18日(土) 出席者: 32名

SAAJ 本部第 232 回月例研究会の DVD を視聴。

テーマ: 「システム監査基準/管理基準の改訂について」

～13年振りに経済産業省から改訂公表されました!～

講師: システム監査に関する検討会 構成員より
座長 遠山 暁 氏 (システム監査学会)
梶本 政利 氏 (日本 IT ガバナンス協会)
黒澤 兵夫 氏 (システム監査学会)
神橋 基博 氏 (三井住友ファイナンシャルグループ)
松枝 憲司 氏 (SAAJ IT アセスメント研究会メンバー)
カ 利則 氏 (SAAJ IT アセスメント研究会メンバー)

4) 第62回 10月20日(土) 出席者: 28名

SAAJ 本部第 17 期通常総会特別講演及び/本部第 233 回月例研究会の DVD を視聴。

テーマ 1: 「人工知能研究の最新情報ーインタラクティブな人工知能を目指してー」

講師: 人工知能学会会長 国立情報学研究所教授 山田 誠二 氏

テーマ 2: 「IT システム開発のトラブルはどこからくるのか?」

講師: 日本アイ・ビー・エム株式会社 東京基礎研究所
インダストリーソリューションサービス 品質エンジニアリング 部長
細川 宣啓 氏

(2) 教育サービスグループ (セミナー担当)

システム監査の普及とシステム監査人の養成を目的としてセミナーを1回開催した。

1) システム監査 基本学習セミナー

近畿支部会員講師により、システム監査の手順と技法概説を行った後、情報処理技術者試験 過去問題を題材に試験対策も兼ねたシステム監査の考え方の解説を行った。

日時：11月10日(金) 13時00分～17時00分 受講者：15名

- ・主査：三橋潤氏 副主査：山本全氏 参加者：5名
- ・グループ会議：2月17日 3月16日 4月10日 5月18日 6月13日 7月11日
9月10日 10月9日 11月2日

(3) ITサービスグループ

支部の情報交換、情報発信及び研究プロジェクトの活動支援を行った。主な成果物は以下の通りである。

- 1) Webサイトの更新(平均1回/1.5ヶ月)、定例の情報更新に加え、トピック等を掲載
- 2) Webサイト、MLの安定運用
- 3) メールマガジンの発行(第34号～第39号)：隔月
- 4) 本部会報投稿：時事論評1本、エッセイ6本
 - ・主査：是松徹氏 副主査：下田あずさ氏 他：5名
 - ・グループ会議：12月21日(メーリングリストでのやり取りを基本として活動)

5. 5. 7. 研究プロジェクト

前年度より継続して2つ研究プロジェクトにより研究活動を行った。

(1) システム監査法制化推進プロジェクト

システム監査の法制化、及びIT政策に関する研究、提言、情報発信を実施した。定例研究会での発表、本部会報への投稿を行った。

定例研究会での講演(5/19)「公会計とシステム監査」及び「某基礎自治体におけるシステム・トラブル対応の進展」田淵隆明氏

- ・主査：田淵隆明氏 副主査：神尾博氏 参加者：3名

【成果】

- ・講演：5月定例研究会
「公会計の複式簿記・発生主義会計がスタート。そのシステム監査上の課題は？」
- ・本部会報掲載：コラム2本(「【コラム】農政の変容と農業構造の現状、農政改革への提言」
「【時事論評】サイバーセキュリティ教育の欺瞞と絶望」)

(2) BCP研究プロジェクト

企業におけるIT-BCP策定にあたっての課題等を考慮しつつシステム監査のポイントを検討してきた。内閣官房国土強靱化推進室による「レジリエンス認証」制度についても具体的な理解を進めるうちに、2018年4月に改定された「システム監査基準」「システム管理基準」と「レジリエンス認証」が求める整備内容を相互補完的に活用することにより、充実したIT-BCPのポイントを整備できるものと考え、考察を進めるとともに、本部投稿記事作成へと活動を進めてきた。近畿支部30周年記念シンポジウムの場等を活用し、BCP支援サービスについても幾分広報してきたが、具体的なサービス実施には至らなかった。

- ・主査：荒町弘氏 副主査：松井秀雄氏 参加者：9名
- ・開催日：2月16日 3月14日 4月20日 5月9日 6月13日 7月11日 8月8日
9月13日 10月16日 11月13日 12月12日
- ・自治体向けICT-BCP支援サービスチラシを作成し、近畿支部30周年記念シンポジウムで広報。自治体などからの要望・相談を受けるには至らなかった。
- ・SAAJ本部会報へ記事投稿(2018年12月号(No.213)に掲載)
「レジリエンス認証制度から始めるIT事業継続管理の試み」

5. 5. 8. 西日本支部合同研究会

今年度の西日本支部合同研究会での近畿支部からの発表者とテーマは次の通りである。

- ・発表者：永田淳次氏

5. 6. 中四国支部

5. 6. 1 支部体制

- 支部長 : 廣末 浩之
- 副支部長 : 田川 誠、佐藤 康之
- 会計 : 本多 美和子
- 監事 : 福原 博明

5. 6. 2. 活動概要

- (1) 月例会の実施。(計6回実施)
- (2) 支部メーリングリストによる連絡、情報交換等

5. 6. 3 活動実績

月例研究会(東京)のDVDの視聴及び情報交換を中心に月例会を実施した。

- (1) 1月度月例会 2018年1月29日(月) 18:30~20:30 出席4名
「経営高度化のための最新のリスクマネジメント」(DVD視聴及び情報交換)
- (2) 3月度月例会 2018年3月7日(水) 18:00~20:00 出席4名
「事業者が考えるデータ利用及び今後の展望や課題」(DVD視聴及び情報交換)
- (3) 4月度月例会 2018年4月19日(木) 18:00~20:00 出席4名
「人工知能研究の最新情報 –インタラクティブな人工知能を目指して–」(DVD視聴及び情報交換)
- (4) 5月度月例会 2018年5月28日(月) 18:00~20:00 出席3名
「ITガバナンスの国際標準化(ISO/IEC38500シリーズ)の最新動向とその取り組み」(DVD視聴及び情報交換)
- (5) 7月度月例会 2018年7月23日(月) 18:00~20:00 出席4名
「システム監査基準/管理基準の改訂について」(意見交換)
- (6) 9月度月例会 2018年9月27日(木) 18:00~20:00 出席3名
「ITシステム開発のトラブルはどこからくるのか?」(発表及び情報交換)

5. 7. 九州支部

5. 7. 1. 役員体制

- 支部長 : 船津 宏
- 副支部長 : 中溝統明 荒添美穂
- 会計 : 居倉圭司
- 監査 : 下司正雄
- 事務局 : 福田啓二
- 地区担当 : 大分: 梶屋博史、長崎: 平山克己、鹿児島: 山下博美、熊本: 桐原光洋

5. 7. 2. 活動計画

- (1) 月例会の開催。
通例どおり、原則月1回の月例会を開催した。(福岡市)
また、月例会はシステム監査学会やISACA福岡支部との共催となっている。
- (2) イベント企画・推進について
大分合同セミナーを九州支部と大分県中小企業診断士協会・大分IT経営推進センター・システム監査学会共催で開催(2/10)
- (3) 支部会員の維持・拡大

情報処理技術者試験会場でのパンフレット配りを実施（4/15）試験会場が変わった情報が入らなかったため効果が少なかったと評価した。

5. 7. 3. 月例会

毎月、本部月例研究会のビデオ視聴および支部会員の研究・検討・報告事項の発表を中心に行った。

以下は各月の主要事項。（各回の主要発表事項）

- (1) 第 315 回 1 月度月例会 1 月 27 日(土) 13:00-17:00
参加：9 名(他 システム監査学会、I S A C A 福岡支部及び J A S A の方 8 名)
 - ・ビデオ視聴：第 227 回月例研究会
「経営高度化のための最新のリスクマネジメント」
 - ・報告・連絡
- (2) 第 316 回 3 月度月例会 3 月 24 日 (土) 13:00～17:00
参加：6 名(他 システム監査学会、I S A C A 福岡支部及び J A S A の方 12 名)
 - ・ビデオ視聴：第 229 回月例研究会
「IT ガバナンスの国際標準化 (ISO/IEC38500 シリーズ) の最新動向とその取り組み」
 - ・報告・連絡
- (3) 第 317 回 4 月度月例会 4 月 21 日(土) 13:00～17:00
参加：6 名(他 システム監査学会、I S A C A 福岡支部及び J A S A の方 14 名)
 - ・ビデオ視聴：第 230 回月例研究会 「残念な B C P とこれからの B C P」
 - ・ビデオ視聴：SAAJ 通常総会特別講演 「人工知能研究の最新情報」
 - ・報告・連絡
- (4) 第 318 回 6 月度月例会 6 月 23 日(土) 13:00-17:00
参加：9 名(他 システム監査学会、I S A C A 福岡支部及び J A S A の方 8 名)
 - ・ビデオ視聴：第 231 回月例研究会
「システムの不具合がもたらす社会的影響ある損害賠償係争事件を巡って」
 - ・報告・連絡
- (5) 第 319 回 7 月度月例会 7 月 28 日(土) 13:00-17:00
参加：2 名(他 ISACA 福岡支部、システム監査学会の方 5 名)
 - ・ビデオ視聴：第 232 回月例研究会 「システム監査基準／管理基準の改訂について」
 - ・報告・連絡
- (6) 第 320 回 8 月度月例会 8 月 25 日(土) 13:00～17:00
参加：4 名(他 システム監査学会、I S A C A 福岡支部及び J A S A の方 7 名)
 - ・ビデオ視聴：第 233 回月例研究会 「IT システム開発のトラブルはどこからくるのか？」
 - ・報告・連絡
- (7) 第 321 回 9 月度月例会 9 月 29 日(土) 13:00～17:00
参加：5 名(他 システム監査学会、I S A C A 福岡支部及び J A S A の方 9 名)
 - ・ビデオ視聴：第 235 回月例研究会
「事例から学ぶ「発注者視点のプロジェクトマネジメントと監査」」
 - ・報告・連絡
- (8) 第 322 回 10 月度月例会 10 月 27 日(土) 13:00-17:00
参加：3 名(他 システム監査学会、I S A C A 福岡支部及び J A S A の方 5 名)
 - ・ビデオ視聴：第 236 回月例研究会 「IoT・ビッグデータ時代のソフトウェア・AI に係る知的財産」
 - ・報告・連絡
- (9) 第 323 回 12 月度月例会 12 月 8 日(土) 13:00-17:00
参加：9 名(他 システム監査学会、I S A C A 福岡支部及び J A S A の方 7 名)
 - ・九州支部総会
 - ・発表：SAAJ 西日本支部合同研究会 (11/17) 講演内容
「JISQ15001:2017 を基準としたシステム監査」 発表者 船津 宏 氏

・報告・連絡

5. 7. 4. 主催、共催イベント

(1) 大分IT経営推進センター主催 大分 合同セミナー (九州支部:4名)

1) 日時: 2018年2月10日(土)13:30-17:30

2) 会場: コンパルホール 307会議室

3) 内容:

第一部: 大分IT経営推進センター会員による講演 (13:40~14:50)

「専門家派遣から見えてきた、企業の真の課題
~webマーケティングでのターゲットの重要性~」

講師: 宮野大樹 氏

第二部: 大分県中小企業診断士協会会員による講演 (15:10~16:10)

「SNSを活用した集客術」

講師: 堀 寿弘 氏

第三部: 日本システム監査人協会会員による講演 (16:20~17:20)

「IT統制監査手続きのトレンドについて」

講師: 梶屋 博史 氏

[> 目次](#)

第2部 会計報告及び会計監査報告

1. 2018年度 活動計算書

2018年1月1日から2018年12月31日まで 特定非営利活動法人日本システム監査人協会

第17期

(単位:円)

科 目	金 額		
I 経常収益			
1 受取入金・会費			
受取入金	76,000		
受取会費	7,145,000	7,221,000	
2 受取寄附金			
受取寄附金	518,469		
ボランティア受入評価益	896,010	1,414,479	
3 事業収益			
普及・啓発、広報事業収益	21,000		
研究・研修事業収益	4,993,808		
認定事業収益	6,240,700		
支部事業収益	1,153,447	12,408,955	
4 その他収益			
印税収益	42,595		
雑収益	1,027	43,622	
経常収益 計			21,088,056
II 経常費用			
1 事業費			
(1) 人件費			
事業活動手当	3,401,235		
人件費 計	3,401,235		
(2) その他経費			
普及・啓発、広報事業運営費	848,414		
研究・研修事業運営費	3,781,523		
認定事業運営費	467,800		
支部事業運営費	1,837,064		
事務所運営費	211,926		
その他経費 計	7,146,727		
事業費 計		10,547,962	
2 管理費			
(1) 人件費			
事務局手当	3,166,387		
厚生費	5,427		
ボランティア評価費用	896,010		
人件費 計	4,067,824		
(2) その他経費			
通信費	171,206		
旅費交通費	560,856		
消耗品費	298,527		
会議費	306,517		
事務所運営費	1,483,463		
ハード・ソフト費用	230,975		
減価償却費	515,317		
租税公課	5,325		
諸会費	72,000		
印税支払	5,915		
雑費	167,264		
その他経費 計	3,817,385		
管理費用 計		7,885,209	18,433,171
当期経常増減額			2,654,885
当期正味財産増減額			2,654,885
前期繰越正味財産額			20,428,044
次期繰越正味財産額			23,124,012

> 目次

2. 2018年度 貸借対照表

2018年12月31日現在

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

第17期

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金・預金	24,516,212		
流動資産 合計		24,516,212	
2 固定資産			
(1) 有形固定資産			
器具備品	301,264		
有形固定資産 計	301,264		
(2) 無形固定資産			
ソフトウェア	340,200		
無形固定資産 計	340,200		
(3) 投資その他の資産			
敷金	966,336		
投資その他の資産 計	966,336		
固定資産 合計		1,607,800	
資産 合計			26,124,012
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	108,000		
前受金	2,814,000		
預り金	119,083		
流動負債 合計		3,041,083	
負債 合計			3,041,083
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産額		20,428,044	
当期正味財産増減額		2,654,885	
正味財産 合計			23,082,929
負債及び正味財産 合計			26,124,012

3. 計算書類に対する注記

3. 1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO 法人会計基準（NPO 法人会計基準協議会）によっています。

(1) 固定資産の減価償却の方法

器具備品は定率法、ソフトウェアは定額法により、帳簿価額を直接減額しています。

(2) 消費税等の会計処理方法

税込方式によっています。

[> 目次](#)

3. 2. 事業別損益の状況

(単位:円)

科目	普及・啓発、 広報事業	研究・研修 事業	認定事業	支部事業	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益							
1 受取入会金 ・会費						7,221,000	7,221,000
2 受取寄附金						1,414,479	1,414,479
3 事業収益	21,000	4,993,808	6,240,700	1,153,447	12,408,955		12,408,955
4 その他収益						43,622	43,622
経常収益計	21,000	4,993,808	6,240,700	1,153,447	12,408,955	8,679,101	21,088,056
II 経常費用							
(1)人件費							
手当	180,000	1,417,500	1,803,735		3,401,235	3,166,387	6,567,622
厚生費						5,427	5,427
ボランティア 評価費用						896,010	896,010
人件費 計	180,000	1,417,500	1,803,735		3,401,235	4,067,824	7,469,059
(2)その他経費							
事業運営費	848,414	3,781,523	467,800	1,837,064	6,934,801		6,934,801
通信費						171,206	171,206
旅費交通費						560,856	560,856
消耗品費						298,527	298,527
会議費						306,517	306,517
事務所運営費			211,926		211,926	1,483,483	1,695,409
ハード・ ソフト費用						230,975	230,975
減価償却費						515,317	515,317
租税公課						5,325	5,325
諸会費						72,000	72,000
印税支払						5,915	5,915
雑費						167,264	167,264
その他経費 計	848,414	3,781,523	679,726	1,837,064	7,146,727	3,817,385	10,964,112
経常費用 計	1,028,414	5,199,023	2,483,461	1,837,064	10,547,962	7,885,209	18,433,171
当期経常増減額	△1,007,414	△205,215	3,757,239	△683,617	1,860,993	793,892	2,654,885

支部に対しては、本部より助成金として、895,000円を支給していますが、上記損益状況には含んでいません。

3. 3. 活動の原価の算定に当たって必要なボランティアによる役務の提供の内訳

(単位:円)

内容	金額	算定方法
事務局作業 1名	896,010	理事活動等に関する規程第3条の2第2号に基づき算定しています。

[> 目次](#)

3. 4. 固定資産の増減内訳

(単位:円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
器具備品	2,373,018	273,218		2,646,236	2,344,972	301,264
ソフトウェア	4,442,148		596,148	3,846,000	3,505,800	340,200
投資その他の資産						
敷金	966,336			966,336		966,336
合計	7,781,502	273,218	596,148	7,458,572	5,850,772	1,607,800

3. 5. 役員及びその近親者との取引の内容

役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

(単位:円)

科目	計算書類に計上された金額	内役員及び近親者との取引
(活動計算書)		
事業活動手当	3,401,235	1,387,830
活動計算書 計	3,401,235	1,387,830

3. 6. その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項

・事業費と管理費の按分方法

各事業の経費及び事業費と管理費に共通する経費のうち、事務所運営費については、事務所の使用面積割合に基づき按分しています。

[> 目次](#)

4. 2018年度 財産目録

2018年12月31日現在

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

第17期

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
・本部現金預金			
三井住友銀行(日本橋東)	7,197,351		
みずほ銀行(八重洲口)	3,568,041		
三菱東京UFJ銀行(日本橋)	2,386,835		
楽天銀行	934,635		
郵便振替口座	6,145,080		
郵便普通預金	1,310,906		
小口現金	494,076		
・支部現金預金			
北海道支部	340,897		
東北支部	159,910		
北信越支部	269,890		
中部支部	328,628		
近畿支部	885,835		
中四国支部	259,395		
九州支部	234,733		
流動資産 合計		24,516,212	
2 固定資産			
(1) 有形固定資産			
シュレッダー 1台	1		
パソコン 2台	136,610		
プロジェクター 4台	1		
サーバー 1台	13,542		
ストレージ 1台	151,110		
有形固定資産 計	301,264		
(2) 無形固定資産			
クラウドサーバーOS アップグレード	340,200		
無形固定資産 計	340,200		
(3) 投資その他の資産			
敷金 共同ビル	966,336		
投資その他の資産 計	966,336		
固定資産 合計		1,607,800	
資産合計			26,124,012
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金			
ホームページ更新等作業料	108,000		
前受金			
翌年以降分の会費	2,730,000		
翌年以降分のCSA・ASA更新料	84,000		
預り金			
源泉徴収税金	119,083		
流動負債 合計		3,041,083	
負債合計			3,041,083
正味財産			23,082,929

[> 目次](#)

5. 2018年度 監査報告

監査報告書

1. 特定非営利活動法人日本システム監査人協会における2018年度

(2018年1月1日から2018年12月31日)の活動計算書、貸借対照表並びに財産

目録は、関係諸帳簿、その他の関係書類を監査したところ、いずれも適正であり、また、

NPO法人会計基準に準じて正確に作成されたものであることを認めます。

2. 業務遂行に関しては、不正行為または法令もしくは定款に違反する事実は認められません。


2019年1月26日

特定非営利活動法人日本システム監査人協会

監事

木村 裕一 

監事

大西 智 

[>目次](#)

2 2019年度 事業計画（案）

[> 目次](#)

1. 本部・計画

1. 1. 全般概要・計画

2019年度は、協会創立30年間の実績を踏まえながら、新たな歴史を刻む年にする。

(1) 活動方針

2019年度の協会の活動方針は次の3点とする。

1) システム監査人の社会的評価の向上

協会の認定資格である「公認システム監査人」への評価を向上させる。

2) システム監査の活性化

○システム監査を核にした“IT アセスメント”の普及を図り、SAAJの活動を“IT アセスメント”の実践に焦点を当てて取り組む。

○この取組みによって、システム監査人のビジネス機会の拡大を図り、SAAJの知名度向上、会員の増強に繋げる。

3) 協会運営体制の充実

研究会、部会活動を中心に、会員参加の協会運営体制の充実を図る。

(2) 活動計画

システム監査の活性化の一環として、次の活動に取り組む。

1) 「ITガバナンスのアセスメント」のISO化を推進する。

2) システム監査に関連する他団体との交流・連携を推進する。

3) 2018年4月に改訂されたシステム監査基準、システム管理基準の普及、利用促進を図る。

4) ホームページ、会報の充実を図り、会員同士のコミュニケーション、協会外部に対する情報発信を推進する。

5) 事務局

事務局業務の効率化を図り、会員サービスの向上に取り組むとともに、会計と協力し、協会の健全運営に努める。

(3) 2019年度の予算編成

予算は協会の活動方針に沿って編成する。

1) 編成方針

収益性ととも活動性を重要とする（有効性の高い活動への重点配分）。

2) 事業活動

事業活動は、収支バランスを原則とする。収支は公認システム監査人等認定事業収支が隔年上下変動することを考慮し、2年タームで収支を確認する。

[> 目次](#)

2. 委員会・計画

2. 1. システム監査活性化委員会・計画

(1) 体制

○委員長 : 小野修一会長

○メンバー : 各研究会、部会、委員会、担当の主査および各支部長

(2) 2019年度活動方針

2019年度のシステム監査活性化委員会（通称、活性化委員会）は、引き続き、2016年度総会で発表したSAAJの「ビジョン」の実現につなげる具体的施策について、検討・実施を推進する。

(3) 具体的な施策と今後の課題

2019年度は、SAAJの「ビジョン」を実現するための施策について、さらに掘り下げた検討を行い、各研究会等の具体的な活動に反映していく。当委員会のメンバーは各研究会、部会、委員会、担当の主査および

各支部長であり、当協会の総力を結集して SAAJ の「ビジョン」実現のための施策の検討を行っていく。その中で、すぐに取り組むべき施策については、担当する研究会等を決めて実施し、当委員会で実施状況の確認、効果の検証を行っていく。

3年続けて実施した「会員向け活動説明会」は、参加者数も安定しており、参加された方の満足度も高いことから、内容の見直しを行った上で、2019年度も引き続き実施する。

> 目次

2. 2. ホームページ運営委員会・計画

(1) 体制

○委員長 : 斎藤由紀子

○メンバー : 委員会、部会、研究会の各主査、支部長

(2) 2019年度活動方針

協会のホームページ <https://www.saaj.or.jp/> について、“工事中”のページを無くし、また、しばらく更新されていないページについては、各委員会、部会、研究会の各主査、支部長に見直しを依頼して、魅力的なサイトとする。

(3) 具体的な施策と今後の課題

1) 協会のホームページ <https://www.saaj.or.jp/> について、参加募集、募集終了などダイナミックなサイトについては委託先に依頼を中心とする。単に文字や画像の表示変更であれば、事務局にて対応する。

2) 事務局サイト、<https://www.saaj.jp> に公開している「PMSハンドブック2014年版」様式ダウンロードは継続するとともに、「PMSハンドブック第2版」のダウンロードサイトを公開する予定。

またNo.1号からの会報ダウンロードサイトは、今後もあらたな会報の発行について公開していく。

> 目次

2. 3. 推薦委員会・計画

(1) 体制

○委員長 : 仲厚吉

○メンバー : 松尾正行 三谷慶一郎

(2) 2019年度活動方針

2019年度は、1号推薦（外部からの推薦依頼）又は2号推薦（台帳登録者からの自己推薦依頼）を受けてシステム監査人適任者の推薦を行う。

(3) 具体的な施策と今後の課題

1号推薦、2号推薦の推薦とともに、行政機関、地方公共団体等より依頼される委員等の推薦に応えること、及び外部団体のシステム監査人募集等に協力することも施策及び今後の課題とする。

> 目次

2. 4. 認定委員会・計画

(1) 体制

○委員長 : 舘岡均

○メンバー : 常任委員・副委員長（鈴木信夫、斉藤茂雄）、委員（理事）

(2) 2019年度活動方針

1月から2月にかけての資格更新審査と認定証の発行、および春秋期の新規応募者の資格認定審査における受付～審査～面接～認定証の発行は、その手順の整理などを行い効率良く実施する。

認定資格更新手続きについては、2015年度より電子メールによる提出を実施した結果、更新者にとって郵送料が不要となりかつ利便性が良いことから引き続き実施する。

(3) 具体的な施策と今後の課題

特別認定制度の改定（2017年6月8日）を実施したので、昨年度に引き続きフォローアップを行う。

[> 目次](#)

2. 5. CSA 利用推進グループ・計画

(1) 体制

○主査 : 齊藤茂雄

○メンバー : 桜井由美子、力利則、原純江、大西智（オブザーバ）

(2) 2019年度活動方針

CSAのプレゼンスと社会的な評価や価値を高め、具体的な実効を挙げることを引続き目標とする。CSA資格更新を積極的に行ってもらえるようにCSA資格の取得効果を実感できる活動を行う。CSAに関わる課題を取りまとめ、CSA利用推進G以外の部会・研究会との連携も深め、SAAJ全体の活動に広げていく。

(3) 具体的な施策と今後の課題

- 1) CSAフォーラムはフェイスtoフェイスの場として年3回以上の開催を目標に推進する。2018年度と同様に、CSA・ASAメーリングリストを用いた資格者全員への事前案内とする。
- 2) 2017年度に作成した「CSAご案内リーフレット」をCSA・ASAの認知度向上とCSA・ASA資格申請者増のためのツールとして活用する。
- 3) 法人部会と連携して、自治体等に対するDM送付の際「入札条件への資格記載の依頼」を同封する。
- 4) 今後は、CSA利用推進に対する支援メンバーの増強や他部会等との連携を通じ、CSA利用推進について施策の拡充、協会ホームページにおけるCSA関連サイトの内容充実などを図っていく。

[> 目次](#)

2. 6. 教育研修委員会・計画

(1) 体制

○委員長 : 三輪智哉

○委員 : 中山孝明、戸室佳代子、越野雅晴

(2) 2019年度活動方針

- 1) これまでと同様、特別認定講習実施機関（以下「講習実施機関」という）2社に委託し、特別認定講習3コースを実施する。
- 2) 特別認定講習3コースに変更はなく、下表のとおり開催する。

講習コース	概要
(1)論文・プレゼンテーションコース (1日コース)	システム監査技術者午後Ⅱ論述式問題に合格できるレベルの論文作成能力、および監査報告のためのプレゼンテーション能力を習得する。
(2)システム監査に関する知識コース (2日コース)	システム監査技術者試験午後Ⅰ記述式問題に合格できるレベルの知識・能力を習得する。
(3)情報システムに関する知識コース (2日コース)	システム監査技術者試験午前・多肢選択式問題に合格できるレベルの知識を習得する。

- 3) 特別認定講習の開催は講習実施機関の計画にもよるが、近年の開催状況から実施回数および修了者数は2018年度実績と同程度を見込む。
- 4) 講習実施機関の試験問題・採点要領・採点結果について、引き続き必要な協議・見直しおよび指導を継続する。
- 5) 特別認定講習受講者の増加策について、講習実施機関と情報交換や協議を通じ効果的な活動に取り組む。

[> 目次](#)

2. 7. 月例研運営委員会・計画

(1) 体制

- 委員長 : 力利則
- 副委員長 : 櫻井俊裕
- メンバー : 林昭夫 柳田正 戸室佳代子 原純江 豊田諭 清水恵子 山口達也 福田敏博
竹原豊和
- アドバイザー : 木村裕一 仲厚吉 三谷慶一郎

(2) 2019年度活動方針

2019年度についても、年間9~10回の開催を予定したい

(3) 各回のテーマ/講師について

- 1) 引続きシステム監査に関連する、鮮度のよいテーマの選定に努めたい。
- 2) 2019年度のテーマ選定にあたり、広く理事全員と会員からも意見を出してもらい参考にする。
- 3) 分野については特定分野に偏らずバランスよく選定していきたい。
- 4) 講師については、官公庁、諸団体、民間、大学教員及び当協会関係者等のバランスを考慮していきたい。

(4) 具体的な施策と今後の課題

- 1) 会場：機械振興会館のホールは、最寄り駅からの距離が多少あるが、椅子が資料台付にて、環境も良好なので、引き続き利用することで進めたい。
- 2) テーマ選定：参加者がどのようなテーマを希望するか、会員にアンケートを実施したい。それらを参考に担当理事による会合により、幅広い観点から、テーマを選定する。引き続きホットなテーマ、幅広い講師招聘をすすめ、多くの会員等の期待に応えていきたい。
- 3) 入会案内の実施：参加者の内約20%を占める会員以外参加者に向けて、協会の研究会案内、活動の紹介と、案内印刷物の配布、開催前のスライド映写を行い、新規入会を促す。
- 4) 開催日の設定の工夫：他団体の研究会と開催日が重なると参加者が減少することがあり、他団体の研究会日程と重複しないように可能な範囲で考慮する。
- 5) 配布資料の電子化：講師の承諾を得た場合、案内した期間内に、参加者に電子データの資料をWEB画面からダウンロードして参加者自身にご持参いただくこととする。これにより配布資料の電子化を図る。
- 6) 支部研究会へのビデオ提供：講師の承諾を得て、ビデオの撮影、支部研究会への提供を継続する。
- 7) 「月例研究会」担当理事の運用マニュアルの充実と活用：事務局と当番理事の役割分担、会員へのメール案内、当日の支援体制、理事会への報告、会報誌への講演録掲載等を引き続きしっかり進める。
- 8) 昨年度に実施できなかった会員アンケートを今年はぜひ実施する予定である。

[>目次](#)

3. 部会・計画

3. 1. 会報部会・計画

(1) 体制

- 主査 : 桜井由美子
- 副主査 : 安部晃生、越野雅晴
- メンバー : 竹原豊和、豊田諭、福田敏博、柳田正、山口達也
- 編集支援 : 会長、各副会長、各支部長

(2) 2019年度活動方針

2019年度は、会報年間テーマを「システム監査人のターニングポイント」に決定した。システム監査の過去、未来においてターニングポイントとなった「外部環境の変化」、「技術的な変化」、「今後予想されること」を焦点に議論し、お互いの知見や意見を交換することを目的として設定した。より多くの方からより多く投稿いただきたくテーマを設定してきているが、テーマを設定することで自由な投稿を抑制してしまう

ことも懸念されるので、テーマ以外の投稿も大歓迎である旨を記事の募集時にアナウンスする等、引続き、会報が会員やシステム監査人にとって、有益な情報交換の場になるように取り組んでいく。

(3) 会報部会の運営

- 1) 会報投稿原稿は、標準フォーマットを使用して運用する。
- 2) 会報の発行は、編集委員持ち回りで、月次発行を維持する。
- 3) 該当月の編集が終了すると次月号編集担当宛に「引継書」を作成し、引き継ぎに漏れがないようにする。
- 4) 定期総会時に優れた投稿記事に「会報アワード」を授与する。

[> 目次](#)

3. 2. 法人部会・計画

(1) 体制

○主査 : 山口達也

○主たる活動メンバー：小野修一、齊木孔二、齊藤茂雄、真鍋直緒、矢野一男、佐々野未知、加佐見明夫

(2) 2019年度活動方針

会員の拡大、システム監査活性化委員会との連携

- ・2019年は2018年度に引き続きシステム監査活性化委員会等他の部会と連携しつつ、法人正会員の増強に努める。
- ・法人部会、さらには当協会の活動成果のアピールが会員の増強につながるので、活動の充実を図っていく。

(3) 具体的な施策と今後の課題

1) 情報セキュリティセミナーの企画・実施

セミナー実施は協会の知名度向上にも意義のある活動であり、セミナー内容の充実、実施事例のアピールなどによって、さらに広報を行い、実績を上げたい。

2) 会報での法人会員企業紹介

- ・会報に会員企業の企業紹介を行うなど、会員企業からの情報発信機会を増やす。

3) 会員同士の情報交換

定例の部会などを通じ、次のようなテーマで、会員企業同士で意見交換を行っていく。

- ・システム監査のビジネス化
- ・システム監査を取り巻く技術、情報、動向など技術資料等の輪読の実施

4) 定例部会

- ・原則、月1回開催する。

[> 目次](#)

4. 研究会・計画

4. 1. システム監査事例研究会・計画

(1) 体制

○主査 : 野田正勝

○メンバー : 51名(2018年12月現在)

(2) 2019年度活動方針

- 1) システム監査普及サービスは事例研究会の活動の源泉であるため、引き続き受託活動を進める。
- 2) システム監査実務・実践セミナー、事例に学ぶ課題解決セミナーを定期的に開催する。また、新教材の作成や既存教材の見直しを行うことで、教材の充実とセミナー講師の育成を行う。
- 3) 月例定例会で継続的に研究活動を行うことで活性化を図り、システム監査普及サービスや各種セミナーの発行体制の増強を図る。

(3) 具体的な施策と今後の課題

1) システム監査普及サービスの受託・実施

- ・システム監査普及サービスは事例研究会の活動の源泉になるものであるが、最近の実施は非常に少なくなっている。2018年度は照会が4件あったが、受託には至らなかったため、受託につなげるための対応を継続する。事例研究会での体制は、必ずしも十分に確保できる状況ではないが、2018年度につづき協会内公募を図るなど、体制の強化を行い、受託につなげていく。

2) 監査普及サービス資料の教材化

- ・最近の最終実績であるj社については、システム内容の置き換え等も含め、被監査会社が判別・類推できないように教材化を検討しているが、進捗が思わしくない状況である。既存教材が時間の経過とともに劣化している状況での新教材の作成は、セミナー講師の育成・増員のためにも急務である。2018年度内部より提案のあった方針で作業を立ち上げ、教材化概要がまとまった段階でj社に説明し、j社の了解を得た上で、資料の具体的な教材化を進めていく。

3) システム監査実務・実践セミナーの開催

- ・公認システム監査人制度の教育制度の一環として、システム監査実務セミナー4日間コースを2回、システム監査実践セミナー2日間コースを2回開催する。システム監査普及サービス実施結果に基づく新教材の開発、並びに、既存教材の時代にフィットとした見直し・改訂に努め、システム監査未経験の会員及び公認システム監査人補にシステム監査実務を経験する機会を提供する。
- ・セミナー運営に関しては、2015年度より変更した、担当講師がセミナー事務局を兼任する運営体制を踏襲すると共に、講師の育成、運営ノウハウの明文化により、次世代への継承を図る。
- ・具体的な開催計画は、以下の通り。

	2019年予定	内容
1	3月開催予定	第33回実務セミナー土日日帰り4日間コース
2	8月～9月開催予定	第34回実務セミナー平日日帰り4日間コース
3	6月～7月開催予定	第34回実践セミナー平日日帰り2日間コース
4	11月開催予定	第35回実践セミナー平日日帰り2日間コース

4) 事例に学ぶ課題解決セミナーの開催

- ・月例定例会で教材アイデアの検討をしていることを踏まえ、教材及び講師の増強を図り、年3回(4月、7月、12月)の開催を目標とする。

5) 月例定例会の活性化

- ・2017年度より実施している課題解決セミナー教材のアイデア検討が定着しつつあるため、引き続きこの研究および2019年度よりj社教材化を中心に月例定例会での研究活動を充実させる。実務・実践セミナーの開催時、並びに、協会の活動説明会時等に積極的に勧誘して新規の会員を増やすことにより、月例定例会の活性化を図る。

[> 目次](#)

4. 2. 情報セキュリティ監査研究会・計画

(1) 体制

- 主査 : 舘岡均
- メンバー : 斉藤茂雄、大西智、豊田諭、村上進司、福田敏博、山口達也、竹原豊和、佐藤雅英(東北支部)
- オブザーバ : 仲厚吉、櫻井俊裕、柳田正、畑野元

(2) 2019年度活動方針

2019年度は、2018年度の活動を踏襲し研究会活動を進めて行く。

- 1) 各メンバーがトピックス、現在あるいは今後着目する調査/研究内容、などを持ち寄り、ITおよびセキュリティについて現状および動向を俯瞰的に把える活動をする。
- 2) 課題等を整理して、各メンバーの得意分野、興味を持つ「個別の研究テーマ」を研究する。

3) 各メンバーがお互いの考え方を尊重することをベースとするコミュニケーションを図り、全員参加型の活動を目指す。

さらには、次のようなことを考慮して活動を進める。

- ・各業界、諸団体、専門分野等のそれぞれをセグメンテーションし、メンバーが分担して調査する。
- ・必要に応じて、知見者（他団体、SAAJ 会員など）にご参加頂き活動レベルの向上を図る。
- ・CSA フォーラムおよび他の研究会との連携を図る。

(3) 具体的な施策

1) 新規メンバー

2019 年度も活動内容に賛同する会員を加えて活動を進める。

2) 個別の研究テーマについて

- ・「IT および情報セキュリティ関連の基準、ガイドライン等の発行、改定の動向調査」を行う。
- ・2019 年度に発生し、着目する重大セキュリティインシデントの経過を調査し、見届けて整理する。
- ・活動を続けながら、さらに「個別の研究テーマ」を検討する。

3) 研究会の開催

- ・原則として月 1 回（平日）、定例研究会を SAAJ 協会事務所で開催。

[> 目次](#)

4. 3. IT アセスメント研究会・計画

(1) 体制

○主査 : 松枝憲司

○メンバー : 上田徹、小野修一、桜井由美子、清水恵子、力利則、豊田諭、仲厚吉、成田和弘、野嶽俊一、原善一郎、増田秀明、松尾正行

(2) 2019 年度活動方針

1) IT ガバナンスに関連する事項

- ・ISO38503 (Assessment of the governance of IT) の ISO 化の支援。
- ・2019 年 6 月 3~7 日フランスのパリで開催される ISO 国際会議へ参加し、CD の検討に参画する。
- ・11 月に韓国で開催予定の ISO 国際会議にも参加する。

2) システム管理基準の改訂、活用等

- ・昨年改訂されたシステム監査及びシステム管理基準について、関連団体と連携してその普及作業に取り組んでいく。
- ・システム管理基準等の活用を目的として、新システム管理基準項目についてのサブコントロール（案）を検討し、他団体とも連携して基準の活用を図っていく。

(3) 研究会の開催

- ・定例研究会は原則月 1 回であるが、状況に応じて、1) IT ガバナンス関連と 2) システム管理基準の改訂作業を個別に開催する。

[> 目次](#)

4. 4. 個人情報保護監査研究会・計画

(1) 体制

○主査 : 斎藤由紀子

○メンバー : 斎藤茂雄、柴田幸一、仲厚吉、林昭夫、藤澤博、村上進司、吉谷尚雄

(2) 2019 年度活動方針

- 1) 「PMS 実施ハンドブック第2版」(JIS Q15001:2017 対応版) を発行し、新たな読者向けダウンロードサイトを公開する。
- 2) 欧州一般データ保護規則(GDPR)と、現行個人情報保護法との関係について研究する中で、今後の個人情報保護と利活用のあり方を追求していく。
- 3) 新JIS対応審査基準の課題を追求し、審査員としてのスキルアップを図っていく。

(3) 具体的な施策と今後の課題

- 1) 「PMS実施ハンドブック第2版」用読者向けダウンロードサイトは第2版を購入した読者を対象とし、新たにメールにて登録申請する仕組みとする。「PMSハンドブック2014年版」は廃刊となるが、既存の読者向けのダウンロードサイトは継続して公開する。
- 2) 欧州一般データ保護規則(GDPR)、現行個人情報保護法、政令、規則、ガイドラインの改正に目を配り、資料作成・共有を図り可能な限り読み合わせを実施する。
- 3) メンバーの世代交代を図るため、会員への声かけを行い、またホームページでも募集記事を掲載する。
- 4) 2019年度の予定

1/9 (水) 14時～17時「PMS実施ハンドブック第2版」読み合わせ 第17章～第20章
1/16 (水) 14時～17時「PMS実施ハンドブック第2版」読み合わせ 第21章～第24章
1/23 (水) 14時～17時「PMS実施ハンドブック第2版」読み合わせ 第25～27章(再)
1/30 (水) 14時～17時「PMS実施ハンドブック第2版」読み合わせ 全体チェック
2月20日(水)以降、毎月第3水曜日 18:30～20:00

[> 目次](#)

4. 5. プロジェクト監査研究会・計画

(1) 体制 (15名：本部10名、支部5名)

○主査 : 原田憲幸(理事)、(本部側司会)大野勇進、(支部側司会)原善一郎

○企画/完了監査チーム :

(リーダ(本部側))細川健一、(サブリーダ)森内正美、園田博、田村修

○設計開発監査チーム :

(リーダ)大野勇進、寺沢晴夫、原田憲幸、加藤智康[中部]

○監査全体チーム :

(リーダ)結城健一、和手信泰、片山邦彦、杉谷博史[近畿]

(2) 2019年度活動方針

前年度に引き続き、チーム別検討を進め、月1回の全体会議で全体の整合を図る

- ・「システム開発を成功に導く」に絞った「プロジェクト監査」について整理する
- ・プロジェクト監査の現場で直ぐに役立つガイドライン、チェックリストを提供する
- ・改訂版の「システム監査基準」「システム管理基準」と整合させる
- ・Web会議を使い、遠隔のSAAJ支部会員も参加し、本部と合同で成果をまとめる

(3) 2019年度活動の目標

- ・2019年4月：監査の契機、観点、監査項目について原案作成
ガイドライン、チェックリストについて様式、記述粒度等の原案作成
- ・5月～9月：ガイドライン、チェックリストの詳細作成
- ・9月末：0版提示、SAAJ内でコメント募集(1ヶ月間)
- ・12月末：コメント吸収、訂正後、1版提示

(4) 研究会の運営

- ・全体会議：毎月第3金曜日にWeb会議で開催し、全体を整合させ、成果物をまとめる
- ・チーム検討：チーム毎に適宜Web会議を開催、チームとして成果物を作成
- ・Web会議ツール：ZohoMeeting

[> 目次](#)

5. 支部・計画

5. 1. 北海道支部・計画

5. 1. 1. 北海道支部体制

- 支部長 : 宮崎 雅年
- 副支部長 : 小林 弘幸
- 会計 : 谷口 泰正
- 研究会担当 : 宮崎 雅年、伊藤 淳一
- 広報担当 : 曾根本 育裕
- 監事 : 大館 広之

5. 1. 2. 2019年度の目標

(1) 定例研究会・勉強会実施

月例研究会は、本部より送付される本日月例研究会のDVDを上映して意見交換を行うほか、支部員が持ち回りで講師を務め、1月から11月まで毎月実施する。

(2) 広報

- ・支部活動について対外的な広報、および支部員勧誘を行う。
- ・対外的な広報に関しては、協会のホームページの北海道支部のコーナーのほか、北海道支部のFacebookページを充実させる。

(3) メーリングリストによる連絡

支部メーリングリストにより、支部員間の連絡および情報交換を行う。

(4) 本部総会・西日本支部合同研究会への支部員派遣

2019年2月22日に東京で開催される本部の第18期総会のほか、西日本支部合同研究会へ支部員を派遣し、他支部との交流を図る。

5. 2. 東北支部・計画

5. 2. 1. 東北支部体制

- 支部長 : 横倉 正教
- 副支部長 : 佐藤 雅英
- 会計 : 櫻谷 昭慶
- 研究広報 : 佐藤 雅英(兼務)、後藤 武志
- 監事 : 成田 由加里
- 顧問 : 鈴木 実

5. 2. 2. 2019年度の目標

(1) 月例研究会及び役員会

- ・定例会を2ヶ月に1回程度、交流会を1~2回程度開催する。(奇数月)
- ・定例会の開催場所は仙台市の他、各県での開催を検討しつつ運営する。
3/23(土)、5/11(土)、7/6(土)、9/7(土)、11/23(土)
- ・2020年度の総会開催に関する役員会を開催する。11/23(土)(最終月例会終了後)
- ・ITCみやぎ・SAAJ東北・JISTA東北 3団体合同のワークショップを開催する。(10月)

(2) 広報活動

- ・各県のITコーディネータ組織、日本ITストラテジスト協会東北支部、OWASP Sendaiとの連携を図り、当協会、東北支部の広報宣伝活動を強化する。
- ・協会ホームページの支部便りを活用し、特に、東北支部地域へのシステム監査に関する情報の発信を行う。
- ・協会本部と連携し、入会勧誘の宣伝をする。
(IPAの情報処理技術者試験実施日等で、チラシを配布する。)

(3) 会員増強

- ・ I P A の情報処理技術者試験（システム監査技術者）合格者などを対象に会員加入を推進する。

(4) システム監査普及サービスの実施

- ・ 2019 年度は、更に会員がシステム監査を体験できるように、システム監査普及サービス対象企業を募り、事例研究会と共同開催を目指す。

[> 目次](#)

5. 3. 北信越支部・計画

5. 3. 1. 支部体制

- 支部長 : 宮本 茂明 (石川)
- 副支部長 : 梶川 明美 (富山)
- 会計 : 長棟 隆 (富山)
- 監事 : 梶川 明美 (富山)
- 県部会長 : 小嶋 潔 (福井)、福田 和夫 (石川)、國谷 吉英 (富山)、
風間 一人 (新潟)、長谷部 久夫 (長野)
- 顧問 : 森 広志 (富山)

5. 3. 2. 2019年度の目標

支部会員の能力向上と支部の技術基盤向上を目指す。

(1) 会員相互の研鑽によるシステム監査技術の向上

- ・ システム監査・情報セキュリティ監査・システムリスク管理等、会員の担当業務の課題や研究活動に関する情報共有・意見交換により、課題解決への方向性等の気づきの場を設ける。

(2) 本部、他支部との交流による知識、技術力の向上

- ・ 研究会ビデオの貸出し運営 (地域別上映)
- ・ 他支部との合同研究会、交流等の企画推進

(3) プレゼンテーション能力の向上

(4) インターネットを活用した組織コミュニケーションの向上

(5) 会員増強/システム監査の普及・啓発

- ・ 他団体との支部例会での交流等を通じ会員増強/システム監査の普及・啓発を推進

5. 3. 3. 活動計画

(1) 支部総会、各県例会

会員の研究報告及び他支部との合同研究会のテーマ検討等を実施予定。

- ・ 3月 9日 年度支部総会 (富山市開催)
- ・ 6月 8日 福井県例会 (福井市開催)
- ・ 9月 14日 新潟県例会 (新潟市開催)
- ・ 12月 7日 石川県例会 (金沢市開催)

(2) SAAJ 中部支部との合同研究会

(3) 西日本支部合同研究会参加

(4) その他

- ・ メーリングリスト等を通じた会員の相互交流、情報交換
- ・ 会員増強/システム監査の普及・啓発に関する活動企画

[> 目次](#)

5. 4. 中部支部・計画

5. 4. 1. 支部体制

- 支部長 (理事) : 久保田 秀男 (留任)
- 副支部長 (理事) : 安井 秀樹 (留任)
- 会計担当 : 鈴木 尚 (留任)

- 会計監査 : 早川 晃由 (留任)
- 監事 : 栗山 孝祐 (留任)
- 顧問 : 大友 俊夫 (留任)
- 顧問 : 田中 勝弘(本部研究会ビデオ管理担当) (留任)

5. 4. 2. 活動方針

- (1) 中部支部内会員の継続的な相互研鑽・交流を図る。
- (2) 中部支部以外の地域や団体との情報交流を積極的に展開していく。

5. 4. 3. 活動内容(予定)

- (1) 研究会：(奇数月(1月、3月、5月、7月、11月)の土曜日)
 - 1) 年間テーマ：「改定されたシステム管理/監査基準の業務への適用について考える」
 - 2) 趣旨：実務面での適用について会員相互間の情報交換などを行なう。
- (2) 西日本支部合同研究会への参加
 - ・近畿支部
- (3) SAAJ 中部・北信越支部、JISTA 中部支部合同研究会 参加
 - 主催：未定
- (4) その他
 - ・メーリングリスト等を通じた会員の相互交流、情報提供

[> 目次](#)

5. 5. 近畿支部・計画

5. 5. 1. 支部体制

- (1) 支部役員

○理事 (支部長/BCP 研究プロジェクト/IT サービスグループ)	荒町弘
○理事 (副支部長/会計/教育サービスグループ)	福本洋一
○理事 (副支部長/教育サービスグループ)	荒牧裕一
○担当役員 (IT サービスグループ/教育サービスグループ)	是松徹
○担当役員 (教育サービスグループ)	山本全
○担当役員 (IT サービスグループ)	下田あずさ
○担当役員 (システム監査法制化推進プロジェクト)	田淵隆明
○担当役員 (システム監査法制化推進プロジェクト)	神尾博
○担当役員 (BCP 研究プロジェクト)	松井秀雄
○監事	浦上豊蔵
- (2) 支部参与
 - 安本哲之助、吉田博一
- (3) サポーター
 - 松本拓也、植垣雅則、尾浦俊行、金子力造、川端純一、近藤博則、中田和男、吉谷尚雄、阪口博一、伊藤聖子、尾崎正彦、岩崎真明、小河裕一、浜田恒彰
 - ※サポーターには定例研究会受付など支部の基幹的活動へ少しでも参画いただきます。

5. 5. 2. 活動方針

- ・定例研究会、システム監査勉強会を基本として、研究プロジェクト・グループ活動を通じて実践的な研鑽活動を行い、支部活動を充実する。また、支部役員会・サポーター会議の計画的な開催と課題管理等により支部運営のマネジメントを実施する。
- ・協会本部のシステム監査活性化委員会の活動に連動して、支部会員の増強に努める。
- ・2019 年は SAAJ 西日本支部合同研究会の開催が近畿支部主催での開催となる。西日本の各支部から広く研究発表をいただけ、そして、今後の新たな研究プロジェクトの発足にもつながるようなテーマ設定とし企画・実施する。

- ・各活動については事業別の採算状況の可視化を行うことで財務の健全化と事業戦略策定への活用を行い、近畿支部財政状況の改善を目指す。

5. 5. 3. グループ活動

(1) 教育サービスグループ

- ・主査：荒牧裕一氏 副主査：福本洋一氏、是松徹氏、山本全氏、三橋潤氏

【目標】

1. 近畿支部会員を中心としたシステム監査人の方々に、システム監査に関連する教育サービスを提供し、システム監査人の知見やスキルの向上に寄与することを目的とする。
2. セミナーを通して、システム監査に関心がある方々および実際に企業内で関与されている方々に、システム監査の知識や体験を修得いただくことを目的とする。
3. 西日本支部合同研究会を円滑に実施する。

【成果目標】

- ・定例研究会：6回開催（1,3,5,7,9,12月）
※11月は西日本支部合同研究会開催のため個別開催なし
- ・システム監査勉強会：4回開催（2,4,6,10月）
- ・セミナー教材・活動報告書（第4四半期に2回）
- ・西日本支部合同研究会資料・報告書（11月）
- ・上記サービス提供にあたっての、運営計画書（TODO管理ツール）

(2) ITサービスグループ

- ・主査：是松徹氏 副主査：下田あずさ氏、荒町弘氏氏

【目標】

1. 近畿支部の諸活動の可視化による、活性化支援を目的とする。
2. 具体的には、Webサイト（<http://www.saaik.org/>）とMLの安定運用、サイト（コンテンツ）の充実、メールマガジンの発行を行う。

【成果目標】

- ・Webサイト、MLの安定運用（サイトのhttps化等）
- ・コンテンツの充実（研究論文・報告書等の会員の成果物の掲載。さらに認知度向上、システム監査普及につながるコンテンツを「IT運用勉強会」等で検討）
- ・メールマガジンの発行（隔月）
- ・本部会報投稿：コラムまたはエッセイ（A4*2枚換算）2本以上
- ・サイトの運用ルール、ガイドラインの継続的改善

5. 5. 4. 研究プロジェクト

(1) システム監査法制化推進プロジェクト

- ・主査：田淵隆明氏 副主査：神尾博氏

【目標】

- ・システム監査法制化のロビー活動（ただし各個人の立場で）
- ・システム監査法制化以外のIT政策の研究・提言・発信
- ・各自治体における、システム監査義務化の推進状況の発信

【成果目標】

- ・講演：年1回以上（原則 SAAJK。当PT成果の外部講演時は事前/事後に役員会に報告）
- ・論文：年1本以上。なお、本部会報掲載のコラム（A4*2枚程度）3本分を、論文1本換算とする。
- ・活動報告書：年1本以上目標（活動自体は業界団体等に年3回以上目標）

(2) BCP研究プロジェクト

- ・主査：荒町弘氏 副主査：松井秀雄氏

【目標】

- ・組織におけるBCPに役立つ情報発信を行う。
- ・IT-BCPに関する監査基準・ポイントを整理する。

【成果目標】

- 講演：年1回以上目標（原則 SAAJK）

自治体向け出前型セミナーの実施（顧客依頼に基づき実施する）

事例作成： モデル企業での IT-BCP 取組み事例を作成する

情報発信： SAAJ 本部投稿記事 1 本

作成支部サイトや SNS 等を通じて BCP に役立つ情報を発信する

5. 5. 5. 西日本支部合同研究会の開催

2019 年 11 月 23 日（土）開催予定で、SAAJ 西日本支部合同研究会への準備を行う。企画・実行にあたり近畿支部内に実行委員会を設ける。メンバーは近畿支部理事・役員及び教育サービスグループ担当を中心として構成し、その他、支部会員からも協力いただける方の参加を募る。

[> 目次](#)

5. 6. 中四国支部・計画

5. 6. 1 役員体制

- 支部長 : 廣末 浩之
- 副支部長 : 田川 誠、佐藤 康之
- 会計 : 本多 美和子
- 監事 : 福原 博明

5. 6. 2 活動方針

- (1) 中四国支部会員及び公認システム監査人の継続的な研鑽と情報交換の場を提供する。
- (2) システム監査の普及に努める

中四国地域で唯一のシステム監査人の団体として、システム監査に関する窓口組織となるべく広報活動等によりシステム監査の普及に努める。

5. 6. 3 活動計画

- (1) 例会の開催
 - ・月例研究会の DVD 視聴
 - ・その他、情報交換
- (2) 他支部、他団体との連携
 - ・地域の諸団体との共催によるセミナー開催
 - ・西日本支部合同研究会への参加

[> 目次](#)

5. 7. 九州支部・計画

5. 7. 1 役員体制

- 支部長 : 船津 宏
- 副支部長 : 荒添 美穂、中溝 統明
- 会計 : 鶴岡 通
- 監査 : 下司 正雄
- 事務局 : 福田 啓二
- 地区担当 : 長崎 平山 克己
: 熊本 桐原 光洋
: 大分 梶屋 博史
: 鹿児島 山下 博美

5. 7. 2 活動計画

- (1) 月例会の開催 原則月 1 回の月例会を継続する。
 - ・本部月例研究会のビデオなどによる自己啓発を推進する
 - ・個人の自己啓発・情報発信活動を推進する。
 - ・参加しやすい雰囲気づくりを行い、活性化を図る。

- ・ ISACA、システム監査学会会員などの参加を促進し、活性化を図る。
- (2) イベント企画・推進
 - ・ 他支部、他団体とのセミナーなどの企画・開催・参加を推進する。
 - ・ 大分合同セミナー（2月）：大分IT経営推進センター主催
 - ・ 西日本支部合同研究会（11月）
- (3) 協会ホームページ・メーリングリストによる情報・意見交換を推進する。
- (4) 支部会員の維持・拡大を図る。

[> 目次](#)

3 2019年度 特定非営利活動に係る事業会計 事業予算科目案

2019年1月1日から2019年12月31日まで 特定非営利活動法人日本システム監査人協会

科 目	2018年度		2019年度	備 考
	第17期 予算	実績	第18期 予算	
I 収益の部				
1 受取入会金・会費	7,080,000	7,221,000	6,980,000	
受取入会金	80,000	76,000	80,000	
受取会費	7,000,000	7,145,000	6,900,000	
2 受取寄附金	400,000	518,469	500,000	
3 事業収益	10,792,000	12,408,955	8,166,000	
普及・啓発、広報事業	0	21,000	0	
研究・研修事業	5,253,000	4,993,808	5,117,000	月例会、セミナー、研究会等
認定事業	4,700,000	6,240,700	2,200,000	認定料、登録料、更新料
支部事業 (本部助成金)	1,787,000 △ 948,000	2,098,447 △ 895,000	1,747,000 △ 898,000	
4 その他収益	2,000	43,622	1,000	
印税収益	0	42,595	0	
雑収益	2,000	1,027	1,000	受取利息等
当期収益 合計 (A)	18,274,000	20,192,046	15,647,000	
II 費用の部				
1 事業費	12,429,000	8,454,493	11,408,000	
普及・啓発、広報事業	2,170,000	1,028,414	2,090,000	会報、パンフ、ホームページ等
研究・研修事業	5,937,000	5,199,023	5,571,000	各研究会、セミナー講師料等
認定事業	2,300,000	2,271,535	2,000,000	認定員手当、認定証作成費
支部事業	2,022,000	1,837,064	1,747,000	
2 管理費	6,621,000	6,953,701	6,848,000	
通信費	200,000	171,206	200,000	
旅費交通費	500,000	560,856	600,000	
消耗品費	165,000	298,527	270,000	
会議費	330,000	306,517	330,000	
事務局手当	3,000,000	3,166,387	3,000,000	
厚生費	4,000	5,427	6,000	
事務所運営費	1,700,000	1,695,409	1,700,000	
ハード・ソフト費用	500,000	504,193	500,000	P C購入等
諸会費	72,000	72,000	72,000	
印税支払	0	5,915	0	
雑費その他	150,000	167,264	170,000	
3 減価償却費	500,000	515,317	500,000	
4 租税公課	150,000	5,325	200,000	
当期費用 合計 (B)	19,700,000	17,810,379	18,956,000	
当期収支差額 (A) - (B)	△ 1,426,000	2,381,667	△ 3,309,000	
内、当期正味財産増減額		2,654,885		
内、資産購入に伴う収支差額		△ 273,218		
償却前収支差額	△ 926,000	2,896,984	△ 2,809,000	

*ハード・ソフト費用等で、10万円以上の支払いとなった場合は、費用でなく資産として計上する。

■
> 目次